

資料3(別添)

改定部分のみ抜粋
(赤字箇所)

(案)

奈良県地域公共交通計画

令和5年3月

奈良県・奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・
五條市・御所市・生駒市・香芝市・葛城市・宇陀市・山添村・平群町・
三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・曾爾村・御杖村・
高取町・明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町・吉野町・大淀町・
下市町・黒滝村・天川村・野迫川村・十津川村・下北山村・上北山村・
川上村・東吉野村

(令和8年3月一部改定)

目次

本編1

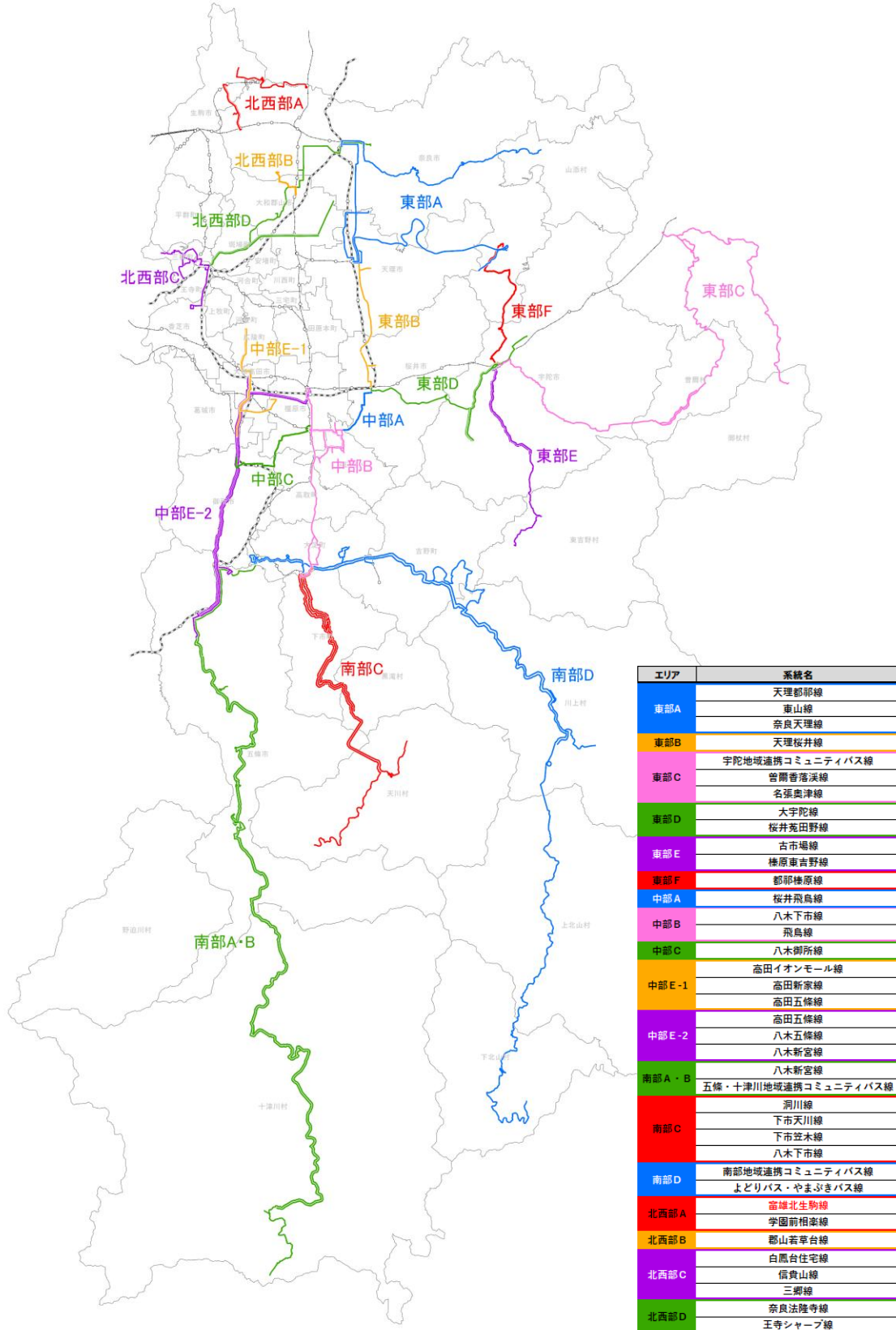
第1章 計画策定にあたって	1
1 奈良県地域公共交通計画策定の趣旨.....	1
2 交通分野の計画との関係.....	2
3 公共交通との連携が必要な計画・協定.....	3
第2章 本県の公共交通の現状・課題	4
1 公共交通を取り巻く環境.....	4
2 これまでの取組の成果・効果検証.....	18
第3章 本県の取組	32
1 基本的な方針.....	32
2 対象区域.....	40
3 計画の目標.....	41
4 目標を達成するために行う事業及び実施主体.....	46
5 達成状況の評価.....	46
6 期間.....	46
7 計画の実施に関し県が必要と認める事項.....	46

本編2

公共交通とまちづくりのデザイン

本編 2
公共交通とまちづくりのデザイン

公共交通とまちづくりのデッサン グループ位置



各グループ一覧

・東部A	天理都祁線、東山線、奈良天理線 (奈良市・天理市・山添村)	1
・東部B	天理桜井線 (天理市・桜井市・三宅町・田原本町)	5
・東部C	宇陀地域連携コミュニティバス、曾爾香落溪線、名張奥津線 (宇陀市、曾爾村、御杖村)	9
・東部D	大宇陀線、桜井菟田野線 (桜井市、宇陀市)	12
・東部E	古市場線、榛原東吉野線 (宇陀市、東吉野村)	16
・東部F	都祁榛原線 (奈良市、宇陀市)	19
・中部A	桜井飛鳥線 (桜井市、明日香村)	22
・中部B	八木下市線、飛鳥線 (橿原市、高取町、明日香村、大淀町)	25
・中部C	八木御所線 (橿原市、御所市、高取町)	29
・中部E-1	高田イオンモール線、高田新家線、高田五條線 (大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町)	32
・中部E-2	高田五條線、八木五條線、八木新宮線 (大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市)	35
・南部A・B	八木新宮線、五條・十津川地域連携コミュニティバス (五條市、野迫川村、十津川村、大淀町)	38
・南部C	洞川線、下市天川線、下市笠木線、八木下市線 (大淀町、下市町、黒滝村、天川村)	41
・南部D	南部地域連携コミュニティバス、よどりバス、やまぶきバス (吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村)	45
・北西部A	富雄北生駒線、学園前相楽線 (奈良市、生駒市)	49
・北西部B	郡山若草台線 (奈良市、大和郡山市)	53
・北西部C	白鳳台住宅線、信貴山線、三郷線 (香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町)	56
・北西部D	奈良法隆寺線、王寺シャープ線 (奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町)	59

東部Aグループ

(関係市町村：奈良市、天理市、山添村)

: 重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	利用ニーズに応じた山間地と市街地を結ぶ公共交通の実証・維持確保
取組内容	・奈良方面村民送迎バス及び東山線運賃補助の実証実験を行い、その結果奈良方面村民送迎バスの継続運行を決定。
実施主体・協力主体	山添村、奈良県、奈良交通
実施効果	利用者数の増加、利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	移動ニーズに応じた持続可能な公共交通の確保
取組内容	・地域公共交通計画にある計画記載事項を実施
実施主体・協力主体	天理市、奈良県
実施効果	移動ニーズに応じた持続可能な公共交通の確保
実施期間	R6.4～

取組名	公共交通を利用した観光ゴールデンルートの組成・周知・定着
取組内容	・公共交通を利用した観光ゴールデンルートを組成・周知し、新たな公共交通利用者を積み増すと共に、利用者アンケート等の結果をフィードバックさせ、質の向上と定着を図る
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域の実態に即したモビリティマネジメントの実施
取組内容	・公共交通の利用イメージが湧いていない沿線住民に対し、公共交通の存在を認知してもらい、具体的な利用イメージを明確に持ってもらうためのモビリティマネジメントを、地域の移動実態に即して実施
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県、交通事業者
実施効果	利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	利用者数の増加
実施期間	R5.3～

取組名	公共交通を利用した観光ゴールデンルートの組成・周知・定着
取組内容	・公共交通を利用した観光ゴールデンルートを組成・周知し、新たな公共交通利用者を積み増すと共に、利用者アンケート等の結果をフィードバックさせ、質の向上と定着を図る
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	拠点となる施設と連携したインセンティブ施策や施設自体の利活用の実施
取組内容	・地域の拠点として機能する施設と連携したインセンティブ施策や、施設を利活用したイベント等の実施
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県、交通事業者
実施効果	利用者数の増加、利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	通学等移動ニーズに応じた公共交通モードの提供
取組内容	・通学利用者や地域住民の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた利用促進策や公共交通モードを再編について検討する
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R7.4～

取組名	コミュニティバスの利便性向上
取組内容	・車両にキャッシュレス決済端末を導入することで、乗客へのサービス向上を図る
実施主体・協力主体	山添村
実施効果	公共交通利用環境の向上
実施期間	R8.7～

取組名	奈良市東部の地域交通ネットワークの再編
取組内容	・持続可能な交通体系を構築するため、スクールバスなどの地域の既存の移動手段の活用も含めて、路線バスから代替交通手段への移行も視野に入れた地域交通ネットワークの再編を行う
実施主体・協力主体	奈良市、奈良県
実施効果	移動ニーズに応じた地域交通ネットワークの実現
実施期間	R5.4～

取組名	交通空白地(福住地区)における公共ライドシェア導入の検討・実施
取組内容	・交通空白地(福住地区)において、地域住民が主体となり道路運送法第78条第2号に基づく自家用有償旅客運送(公共ライドシェア)の実証運行を行い、導入を検討・実施
実施主体・協力主体	天理市
実施効果	持続可能な公共交通の実現
実施期間	R8.4～

取組名	公共交通を利用した観光ゴールデンルートの組成・周知・定着
取組内容	・公共交通を利用した観光ゴールデンルートを組成・周知し、新たな公共交通利用者を積み増すと共に、利用者アンケート等の結果をフィードバックさせ、質の向上と定着を図る
実施主体・協力主体	奈良市、天理市、山添村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

○東部Aにおける重点取組事項について

○利用ニーズに応じた山間地と市街地を結ぶ公共交通の実証・維持確保

重点取組事項のねらい	山添村と奈良市中心地を結ぶ公共交通のよりよい形がありうるかの実証・結果反映を通じ、山間地と市街地を結ぶ不可欠な公共交通をできる限り長く維持する
実施効果	山添村と奈良市中心地を結ぶ公共交通の利用者数の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R5)	2年目(R6)	3年目(R7)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 利用ニーズに応じた、奈良市街地方面への山添村民送迎バスの実証実験(奈良交通東山線のバス運賃補助事業含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験結果を踏まえた、利便性を向上させるような東山線再編(一部便の路線延長・ダイヤ改正・運行形態変更 等)の検討 再編後の費用負担按分の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の利便性を向上させるような東山線再編(一部便の路線延長・ダイヤ改正・運行形態変更 等)の実施
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施や結果分析に関する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 東山線再編検討に関する関係者間調整・支援 	<ul style="list-style-type: none"> 東山線再編実施に関する関係者間調整・支援
	山添村※1	<ul style="list-style-type: none"> 奈良方面村民送迎バスの運行・使い方具体例提示/周知 利用者アンケート調査の実施・結果分析 東山線の使い方具体例提示/周知 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の結果を踏まえ奈良方面村民送迎バスを継続運行 東山線の利用促進に向け、村外の方に神野山等のイベント情報の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の結果を踏まえ奈良方面村民送迎バスを継続運行 東山線の利用促進に向け、村外の方に神野山等のイベント情報の周知
	交通事業者 (バス事業者)	<ul style="list-style-type: none"> 東山線利用データの整理・分析 東山線の使い方具体例提示/周知 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験結果を踏まえた、東山線再編案の検討 東山線の使い方具体例提示/周知 	<ul style="list-style-type: none"> 東山線再編案の検討 東山線の使い方具体例提示/周知
	山添村、奈良市、天理市、奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用した日帰り観光ゴールデンルートの組成 	<ul style="list-style-type: none"> 日帰り観光ゴールデンルートの周知や集客 日帰り観光客へのアンケート調査実施・結果分析 	<ul style="list-style-type: none"> 日帰り観光ゴールデンルートの改善 日帰り観光ゴールデンルートの周知や集客 日帰り観光客へのアンケート調査実施・結果分析 東山線再編案の検討 東山線の使い方具体例提示/周知
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業

東部Bグループ

(関係市町村：天理市、桜井市、三宅町、田原本町)

:重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	天理桜井線の抜本的な見直しによる、持続的な公共交通体系の構築
取組内容	・利用者のニーズを把握し、バス路線の再編やデジタル技術を活用したデマンド交通の導入、コミュニティバスの再編等により利便性を向上 ・バス-鉄道ダイヤの見直し等により、乗り継ぎを円滑化
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県、奈良交通、鉄道事業者
実施効果	公共交通利便性向上、公共交通利用率の増加
実施期間	R6.4～

取組名	駅・バス停までの自家用車送迎を公共交通に転換するとともに利用促進策の実施
取組内容	・駅・バス停への送迎に自家用車利用が多いため、そうした需要を公共交通へ転換する ・拠点整備に併せた公共交通利用促進策を検討・実施
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県
実施効果	バスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成・展開
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルート作成・展開
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.10～

取組名	住民の移動ニーズを踏まえた天理市地域公共交通計画の取組を推進
取組内容	・地域公共交通計画にある計画記載事項を実施
実施主体・協力主体	天理市、奈良県
実施効果	持続可能な公共交通の実現
実施期間	R6.4～

取組名	交通事業者と市関係施設が連携した公共交通利用促進
取組内容	・市関係施設との連携による公共交通利用促進のイベント等を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加、施設利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	来訪者への広域周遊の促進
取組内容	・トレイルセンター等と連携して地域の魅力を発信し、それと併せて沿線観光地への周遊を促進
実施主体・協力主体	天理市、桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	デマンド型交通の拡充
取組内容	・デマンド型交通の運行区域の拡充を検討・ 実施
実施主体・協力主体	田原本町、奈良県
実施効果	公共交通空白地の解消
実施期間	R6.10～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	路線バス車内モニターによる観光施設案内
取組内容	・路線バス車内のモニターで、観光施設の案内等を行い、観光地の知名度向上とともに利便性向上を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	観光地の魅力PR、公共交通利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・ コミュニティバスでの活用
実施主体・協力主体	奈良交通、桜井市
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	住民の移動ニーズを踏まえた利用促進策の実施
取組内容	・利用促進のため、桜井市民の通院利用における特別乗車券の検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R7.4～

○東部Bにおける重点取組事項について

○天理桜井線の抜本的な見直しによる、持続的な公共交通体系の構築

重点取組事項のねらい	天理桜井線の役割を見直し、住民の移動ニーズに応える、持続的な公共交通体系の実現
実施効果	地域住民の利便性の向上、公共交通利用率の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R6)	2年目(R7)	3年目(R8)	4年目(R9～)
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) 路線再編による課題整理(通勤/通学利用者向けの取組・補助金・費用負担割合等) 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討・実施 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンドの利用環境整備(案内標識やベンチ整備等) AIデマンドの利用促進 利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編の必要性を検討 路線再編も含めた住民の移動ニーズをカバーする交通モードと利用促進策の検討(実証運行含む) 利用環境整備(公共交通マップ作成含む)
役割分担 (※1実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編に係る調査検討を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策への支援 広報の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策/利用環境整備への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編に係る調査検討を支援 実証運行への支援 利用促進策/利用環境整備への支援
	天理市	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通に本格運行 路線再編による課題整理 利用実態調査等を実施し、路線再編の必要性を検討 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通網の拡張～データ分析 利用促進策の検討・実施 地域住民に対する利用促進策の周知 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通網の拡張～データ分析(R7結果反映) 利用促進策/利用環境整備の検討 路線再編に備えて既存の交通モードの拡充及び新たな交通モードの導入を検討 	<ul style="list-style-type: none"> AIデマンド交通網の拡張(R8結果反映) 路線再編に備えて既存の交通モードの拡充及び新たな交通モードの導入を検討 利用実態調査等を実施し、住民の移動ニーズをカバーする交通モードの実証運行計画立案 利用促進策/利用環境整備(公共交通マップ作成含む)の検討・実施
	桜井市	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編による課題整理 利用実態調査等を実施し、路線再編の必要性を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討・実施 地域住民に対する利用促進策の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策/利用環境整備の検討 利用実態調査等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 路線再編の必要性を検討 利用実態調査等をもとに、住民の移動ニーズをカバーする交通モードの実証運行計画立案 利用促進策/利用環境整備(公共交通マップ作成含む)の検討・実施
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 利用環境整備への協力 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 利用環境整備への協力 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(調査検討) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行)

東部Cグループ

(関係市町村：宇陀市、曽爾村、御杖村)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
宇陀市、曾爾村、御杖村
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄 大阪線
 - ・三重交通(曾爾香落溪線 名張奥津線)
 - ・**コミュニティバス**: 宇陀地域連携コミュニティバス(奥宇陀わくわくバス)
 - ・**デマンド交通**: 御杖村村営デマンド交通(つえみ号)
- **主な利用データ**
 - ・近鉄榛原駅 乗降人員 **6,826人/日**(R6)
 - ・曾爾香落溪線: 5診断指標のうち、収支率で未達成(R7)
 - ・名張奥津線 : 5診断指標のうち、収支率で未達成(R2~)
 - ・宇陀地域連携コミュニティバス: 5診断指標のうち、平均乗車密度、**収支率**、利用者1人あたりの行政負担額の**3項目**が未達成(**要改善状態はR2~**)

- **関係情報**
 - ・御杖村にはドライブやツーリングで立ち寄る道の駅「伊勢本街道御杖」の農産物直売所(R6利用者: **56,742人**)・姫石の湯(R6利用者: **59,140人**)など観光施設が豊富である
 - ・曾爾村では、門僕神社秋祭りが10月、スポーツの日の前日の日曜日に開催
 - ・そののわGLOCAL(R5: 18件、**R6: 8件**、主にインバウンド観光客(特に東南アジア)を村内の観光地等へ運行し、地域の観光資源の活用を図る)
 - ・【三重交通】令和3年4月から名張駅始発便及び山粕西発最終便(曾爾香落溪線)は、近大高専経由
 - ・【三重交通】曾爾高原ファームガーデンに乗り入れを開始
- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・対象路線につき、診断指標5項目の達成

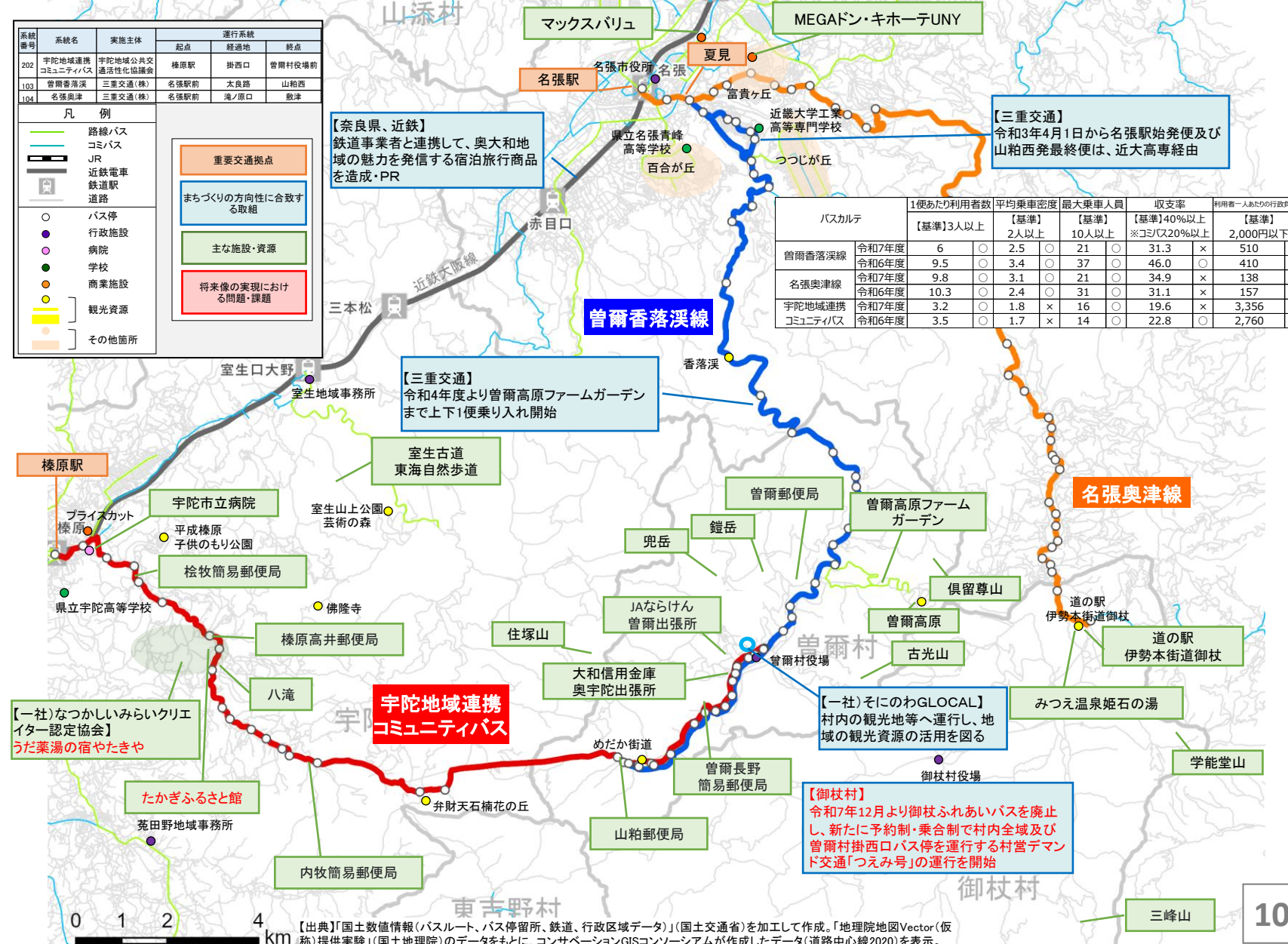
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 東西方向に走る近鉄の名張駅および榛原駅から観光資源が豊富な曾爾高原や道の駅伊勢本街道御杖まで路線バス等でアクセス可能
 - 曾爾村から榛原駅に向かう生活路線
 - 奥宇陀わくわくバスでは、貨客混載を実施(休止中)
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 生活交通の利用喚起や利用者が増えないことの原因分析が不足している
 - 多くの観光客が自家用車で来訪しており、公共交通利用への仕掛けが必要

取組の方向性

- 住民向け —
【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民の移動ニーズを踏まえた複数交通モードを活用した取組の実施
 - 奥宇陀わくわくバス沿線地域における公共ライドシェアの導入を検討・実施
 - デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討
- 観光客向け —
【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 観光客取込のために実施した運行ルート変更の周知強化
 - 公共交通を利用して登山やトレッキングができる施策の検討
 - 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化

まちづくりの方向性(イメージ図)



住民向けの取組

取組名	住民の移動ニーズ把握とそのニーズに応じた交通モード導入の検討・実施
取組内容	・生活交通の利用喚起や利用者が増えないことの原因を分析し、そのニーズに応じた交通モードの再編や、新たな交通モード導入の検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県
実施効果	持続可能な公共交通の実現
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	将来的な公共交通の選択肢となり得る自動運転の実証運行事業
取組内容	・自動運転技術を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院 やスーパー 等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域公共交通の確保と医療版MaaSを実現するため、自動運転技術の導入及び通院・交通における予約の一元化システムの導入
取組内容	・乗車予約システム技術を活用し、宇陀市立病院にて次の通院の予約とともに、病院までの交通予約を同タイミングで行えるようにする
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通利用促進のためのモビリティ・マネジメント
取組内容	・公共交通に不慣れな利用者に対し、わかりやすい情報発信やバスの乗り方教室等を実施し、公共交通の利用促進を図る
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	宇陀市、御杖村、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	デマンド交通の充実と公共交通車両の脱炭素化・ 小型化
取組内容	・住民の生活交通を確保するため、現行のデマンド交通の機能を 充実 させるとともに、公共交通の脱炭素化を進めるため、使用車両を のEV化・小型化を進める。
実施主体・協力主体	御杖村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加、温室効果ガス排出量の削減
実施期間	R7.4～

取組名	奥宇陀わくわくバス沿線地域における公共ライドシェアの導入
取組内容	・交通空白地及び担い手不足の解消のため、地域住民が自家用車を活用して有償運送を行う公共ライドシェアの導入を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県
実施効果	持続可能な公共交通の実現
実施期間	R6.4～

取組名	高齢者に対するバス利用券の導入
取組内容	・現在運用されているタクシー券について、バスでも利用できるよう関係者間の調整を行い、R6年度より利用を開始
実施主体・協力主体	曾爾村、三重交通、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

観光客向けの取組

取組名	オールシーズン楽しめる本エリアへ訪れる観光客への公共交通利用促進
取組内容	・春夏は佛隆寺の桜、彼岸花、秋は曾爾高原のススキや門僕神社秋祭り、冬は三峰山の霧氷など、オールシーズン楽しめる本エリアに来訪する観光客に向けた公共交通利用施策の検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通を利用したアウトドアコースの提供
取組内容	・室生古道や東海自然歩道、曾爾高原など、公共交通を活用したアウトドアコースの提供、PRを実施
実施主体・協力主体	宇陀市、曾爾村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

東部Dグループ

(関係市町村:桜井市、宇陀市)

: 重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	デジタル技術等の活用により、持続的な公共交通体系を構築し、暮らしやすいまちを目指す
取組内容	・天満台地区への自動運転車両の実証運行や通院予約等の機能を盛り込んだ乗車予約システムを運用し、高齢者が利用しやすく、かつ持続的な交通サービスを実現する
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国
実施効果	公共交通の利用満足度の向上
実施期間	R5.12～

取組名	主要駅への送り迎えを公共交通に転換
取組内容	・駅への送迎は自家用車が多いため、そうした需要を公共交通へ転換する取組を検討・実施 ・鉄道からバスへの乗り継ぎ案内の周知方法を検討
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	バスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成・展開
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成・展開 ・デジタル技術等を活用した新たな企画や効果的な情報発信方法を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民向けのモデルコースの作成・展開
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通の乗り継ぎ利便性の向上
取組内容	・ダイヤ調整による、大宇陀線・桜井菟田野線と他の交通機関との乗り継ぎを改善し、通院利用の利便性向上を図る
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通の利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	うだ・アニマルパークへの路線バス乗り入れ
取組内容	・うだ・アニマルパークへ直接路線バスが乗り入れするための取組を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通の利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・ コミュニティバスでの活用
実施主体・協力主体	奈良交通、桜井市、宇陀市
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	鉄道と連携した観光地の魅力発信
取組内容	・鉄道と連携した企画を検討し、観光地の魅力を発信と公共交通の利用促進に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、宇陀市、奈良県、近畿日本鉄道
実施効果	鉄道の利用者増加
実施期間	R5.4～

○東部Dにおける重点取組事項について

○デジタル技術等の活用により、持続的な公共交通体系を構築し、暮らしやすいまちを目指す

重点取組事項のねらい	デジタル技術を活用したモビリティ・サービス導入や公共交通の利用促進に向けた取組を進めるとともに、大宇陀線を見直し持続的な公共交通体系を再構築
実施効果	公共交通利用満足度の向上、公共交通利用者の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R6)	2年目(R7)	3年目(R8～)
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術を活用した自動運転車両の実証運行 乗車予約システムの試験運用/通院予約機能追加 バス待合環境の整備検討 公共交通利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 大宇陀線の見直し案の検討 デジタル技術を活用した自動運転車両の実証運行 乗車予約システムの試験運用等 バス待合環境の整備 利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 大宇陀線の見直し案の検討・実施 デジタル技術を活用した自動運転車両の実証運行 乗車予約システムの試験運用等 バス待合環境の整備 利用促進策の検討等
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 実証運行、予約システム機能追加への協力・支援 関係者間の調整への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 実証運行、試験運用への協力・支援 関係者間の調整への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 実証運行、試験運用への協力・支援 関係者間の調整への協力 情報提供(国の補助制度、他府県事例)
	宇陀市	【自動運転】 <ul style="list-style-type: none"> 実証運行(榛原駅～宇陀市立病院～天満台地域)～データ分析・課題整理 車両の機能追加検討(路車協調システム) 	【バス路線の見直し】 <ul style="list-style-type: none"> 利用データ分析、地域関係者の協議のもと、大宇陀線見直し案検討(便数、ダイヤ) 地域関係者へ周知 	【バス路線の見直し】 <ul style="list-style-type: none"> 利用データ分析、地域関係者の協議のもと、大宇陀線見直し案検討・実施(便数、ダイヤ) 地域関係者へ周知
		【乗車予約システム】 <ul style="list-style-type: none"> 試験運用・検証(通院予約機能・モバイル版対応機能等) 地域関係者へ周知 	【自動運転】 <ul style="list-style-type: none"> 実証運行(榛原駅～宇陀市立病院～天満台地域)～利用データ分析(R6結果反映) 車両の機能追加検討(AI技術活用による見守り・防犯システム) 	【自動運転】 <ul style="list-style-type: none"> 実証運行(榛原駅～宇陀市立病院～天満台地域)～利用データ分析(R6結果反映) 車両の機能追加検討等(AI技術活用による見守り・防犯システム)
		【バス待合環境】 <ul style="list-style-type: none"> 乗り換えポイントへのバスロケーションシステム導入検討 	【乗車予約システム】 <ul style="list-style-type: none"> 試験運用・検証(通院予約機能) 追加機能の検討(キャッシュレス決済機能等) 	【乗車予約システム】 <ul style="list-style-type: none"> 試験運用・検証等(通院予約機能) 追加機能の検討(キャッシュレス決済機能等)
	病院関係者	<ul style="list-style-type: none"> 通院予約システム導入検討 システム利用方法を病院関係者へ周知 	<ul style="list-style-type: none"> 通院予約システム導入検討・準備 病院関係者や通院される方へ周知 	<ul style="list-style-type: none"> 通院予約システム導入検討・準備等 病院関係者や通院される方へ周知
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 	<ul style="list-style-type: none"> バス乗降データの提供 	
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業(実証運行) 公共交通基本計画推進支援事業(利用環境整備) 公共交通基本計画推進支援事業(調査検討)

東部Eグループ

(関係市町村: 宇陀市、東吉野村)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
 - ・宇陀市、東吉野村
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄 大阪線
 - ・奈良交通(古市場線 榛原東吉野線)
 - ・コミュニティバス等: 奥宇陀わくわくバス(宇陀市)、かぎろひバス(宇陀市)、らくらくタクシー(宇陀市)、ふるさと号(東吉野村)
 - ・自家用有償旅客運送: あいの家(東吉野村)
- **主な利用データ**
 - ・近鉄榛原駅 乗降人員 6,826人/日(R6)
 - ・古市場線 :5診断指標達成(R7)
 - ・榛原東吉野線:5診断指標達成(R7)
- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・古市場線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成
 - ・榛原東吉野線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成
- **関係情報**
 - ・高見山やふるさと村周辺の観光施設への来訪には近鉄榛原駅を拠点とした路線バスおよび東吉野村コミュニティバスの利用が必要
 - ・東吉野村小川地区まちづくりに関する基本計画を策定(R2.6月)しており、令和3年度に本地区にサテライトオフィスを整備、令和6年度に新たに1社が利用を開始したほか、引き続き移住促進を図っている
 - ・ひよしのさとマルシェには、村の特産品や軽食の他、村内の観光パンフレットを用意

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 朝の通勤通学時間帯の利用が最も多い
 - 地域住民や免許返納した高齢者の通院や買い物利用に不可欠な路線
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 路線バスの土日祝の運行は、榛原駅～菟田野のみとなっており、菟田野以南の移動にはコミュニティバスの利用が必要
 - 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや乗り方について住民向けに周知が必要
 - 観光資源はあるが、来訪者の大半は車利用となっている

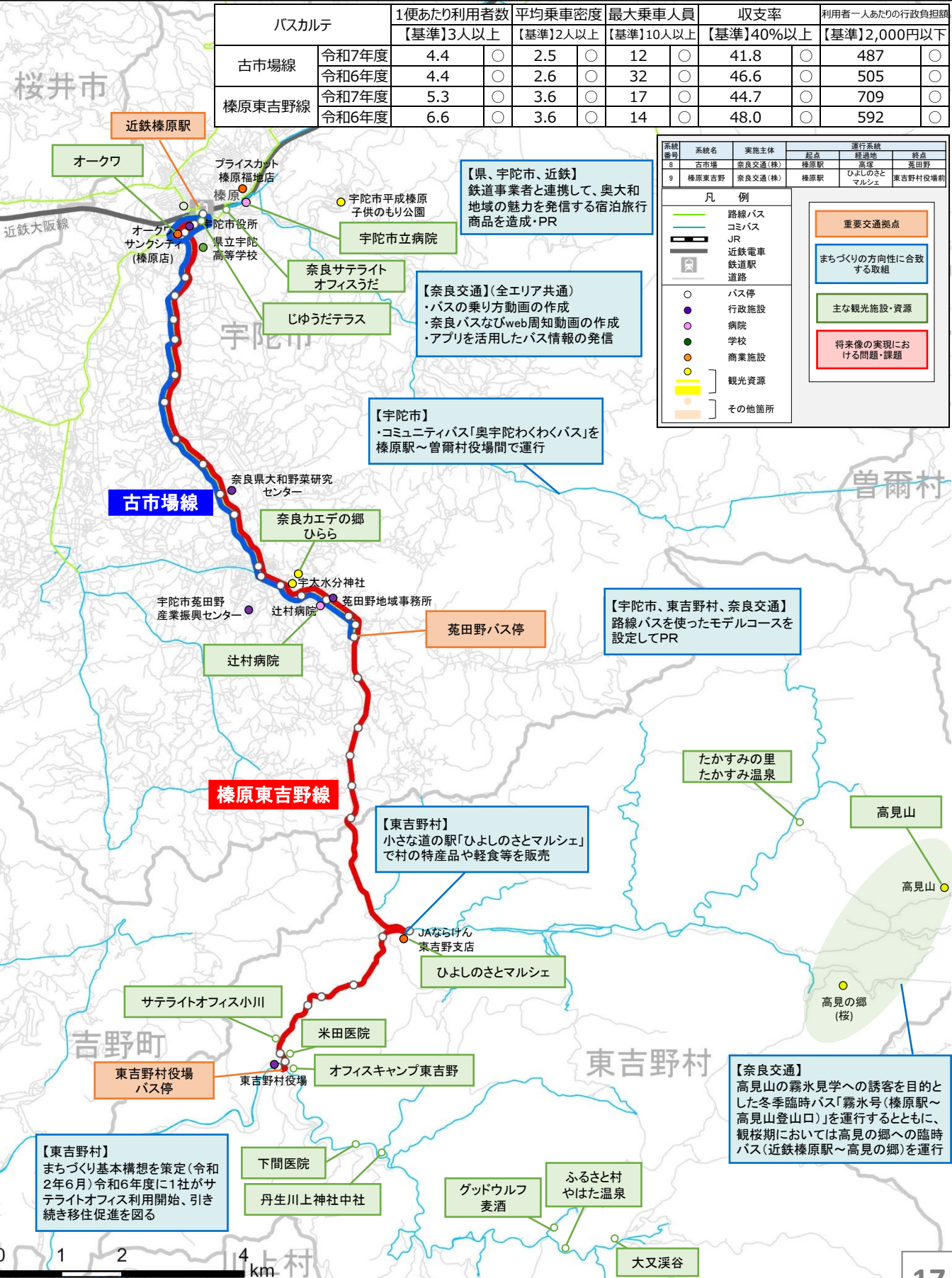
取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや乗り方(自由乗降等)について住民向けにPRを実施

- 観光客向け —
- 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 観光客取込のために実施した運行ルート変更の周知強化
- 公共交通を利用した観光モデルルートの立案ならびに観光イベントの企画・発信を強化
- 既存のコミュニティバスと周辺施設が連携したにぎわい創出の取組検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	住民の公共交通の認知度向上による利用促進
取組内容	・乗り方案内を作成・配布及び広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成による公共交通利用促進
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの検討・作成
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民向けモデルコース作成による公共交通利用促進
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けモデルコース作成に向けた取組を検討・展開
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスでの活用
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	鉄道事業者と連携した奥大和の魅力発信
取組内容	・鉄道事業者と連携して、奥大和地域の魅力を発信する宿泊旅行商品を造成・PR
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県、交通事業者
実施効果	来訪者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	将来的な公共交通の選択肢となり得る自動運転の実証運行事業
取組内容	・自動運転技術を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院 やスーパー 等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスの安全性及び利便性向上
取組内容	・老朽化した車両を取り換えることで、安全性や乗客へのサービス向上を図る
実施主体・協力主体	東吉野村
実施効果	公共交通利用環境の向上
実施期間	R7.4～

取組名	交通モードを組み合わせた周遊観光の促進
取組内容	・観光客の移動ニーズに合わせて複数の交通モードが連携する周遊観光の取組を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、東吉野村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性向上、来訪者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域公共交通の確保と医療版MaaSを実現するため、自動運転技術の導入及び通院・交通における予約の一元化システムの導入
取組内容	・乗車予約システム技術を活用し、宇陀市立病院にて次の通院の予約とともに、病院までの交通予約を同タイミングで行えるようにする
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県、国
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

東部Fグループ

(関係市町村:奈良市、宇陀市)

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	利便性と効率性を両立した交通体系の構築と利用者増につながる取組の推進
取組内容	・住民参加によるワークショップを開催し、移動ニーズの把握を行い、スクールバスや福祉交通等と連携した路線バス・コミュニティバスの利便性・効率性の向上を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性、効率性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	奈良市東部地域公共交通計画策定
取組内容	・奈良市総合交通戦略での検討結果等を基に、スクールバス等の地域公共交通以外の移動手段の状況も調査対象とし、東部地域の公共交通や地域の現況を把握・分析し計画を策定
実施主体・協力主体	奈良市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	針テラスの整備に併せた公共交通利用促進策の検討・実施
取組内容	・針テラスを乗り継ぎ拠点として活用できるよう、周辺施設と連携した公共交通の利用促進策を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	将来的な公共交通の選択肢となり得る自動運転の実証運行事業
取組内容	・自動運転技術を活用し、高齢者の移動が多い日中の時間帯を中心に病院 やスーパー 等を複数回周回することにより高齢者の移動手段を確保
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	通院・交通における予約の一元化
取組内容	・乗車予約システム技術を活用し、通院予約と交通予約を同じタイミングで行えるようにシステム整備を実施
実施主体・協力主体	国、奈良県、宇陀市、奈良交通、奈良県警
実施効果	公共交通の利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	観光利用促進に向けた情報発信
取組内容	・観光情報とあわせた公共交通情報の案内ならびに来訪者向けのデジタル技術等を活用した情報提供サービスを充実し、公共交通の利用促進を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	奈良市、宇陀市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・ コミュニティバスでの活用
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	ダイヤ調整等による公共交通の利便性向上
取組内容	・乗り継ぎ拠点である榛原駅、それと接続する路線バス、コミュニティバスのダイヤ調整を行い、利便性の向上を図る
実施主体・協力主体	宇陀市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

中部Aグループ

(関係市町村: 桜井市、明日香村)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
桜井市、明日香村
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 桜井線(万葉まほろば線)
 - ・近鉄 大阪線、橿原線、南大阪線
 - ・奈良交通(桜井飛鳥線)
 - ・コミュニティバス:桜井市コミュニティバス、あすかデマンド乗合交通
- **主な利用データ**※
 - ・JR桜井駅 乗車人員 1,925人/日(R6)
 - ・近鉄桜井駅 乗降人員 13,846人/日(R6)
 - ・橿原神宮前 乗降人員 16,353人/日(R6)
 - ・飛鳥駅 乗降人員 1,930人/日(R6)
 - ・桜井飛鳥線:5診断指標達成(R7)

- **関係情報**
 - ・「桜井駅周辺地区まちづくり基本計画(H30.10月(R5.4月改定))」
 - ・牽牛子塚古墳の一般公開(R4.3月~)
 - ・NAFIC附属セミナーハウスが開校(R4年度)
 - ・明日香村役場新庁舎開庁(R5.5月)
 - ・「飛鳥・藤原」世界文化遺産登録(R8年予定)※「石舞台古墳」を始めとする世界文化遺産構成資産候補が19箇所点在
 - ・**星野リゾートが宿泊施設開業予定(R9年予定)**
 - ・「明日香まるごと博物館」地域計画の推進
 - ・「飛鳥宮跡周辺地区まちづくり基本構想、飛鳥駅周辺地区まちづくり基本構想(H29.6月)」の推進
 - ・飛鳥京跡苑池の整備
 - ・**桜井市内の駅前等にシェアサイクルポート設置**
 - ・**奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW&LOOP」プロジェクト始動(R6年12月~)**
 - ・**主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月~R8年3月)桜井市の観光PRイベントを奈良県で実施(R7年12月)**

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・桜井飛鳥線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 通院や事業所等への通勤といった生活利用があるが、観光利用の占める割合が多く、観光客の変動で収支率が大きく変動する

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- JR・近鉄桜井駅から観光エリアへのアクセスを桜井飛鳥線が担っており、現在運行している観光周遊バス等とのシームレスな接続が必要
- 観光客に対し、公共交通で来訪いただくためにどのような仕掛けを行うか
- 車を運転できない高齢者層を中心に、住民の移動手段確保をどのように実現するか

取組の方向性

ー住民向けー

【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

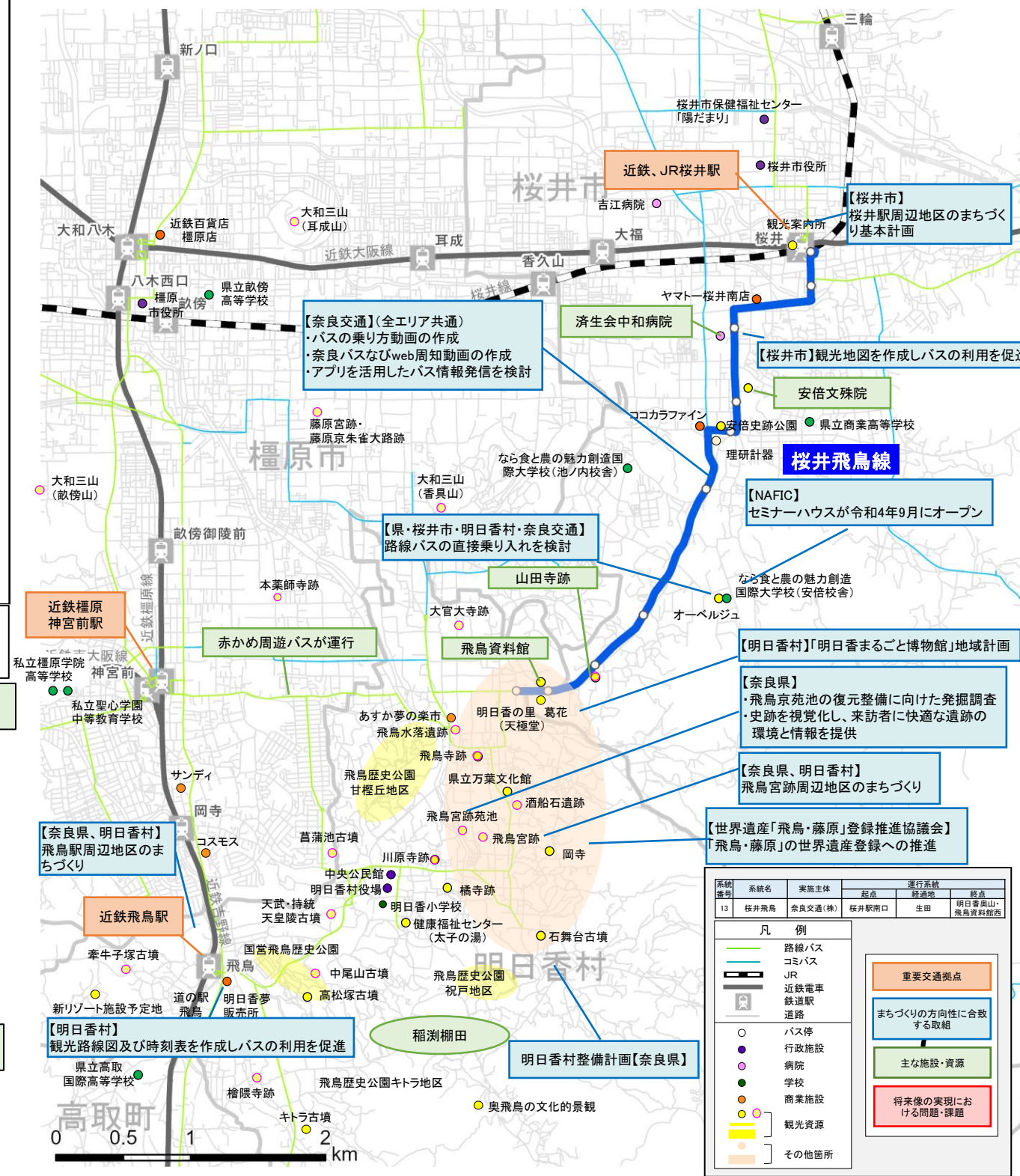
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 通院・通学需要の公共交通利用への取込

ー観光客向けー

【目標】公共交通を利用した周遊観光のための取組実施

- 既存のコミュニティバスや周辺施設等と連携したにぎわい創出の取組検討
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンソーシアムGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

バスカルテ	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額		
	【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	○	【基準】2,000円以下	○	
桜井飛鳥線	令和7年度	3.8	○	2.5	○	14	○	40.9	○	392	○
	令和6年度	3.6	○	2.6	○	15	○	42.8	○	450	○

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	済生会中和病院への通院需要の取り込み
取組内容	・朝の通院時間と運行ダイヤを調整し、通院需要の取り込みができるような仕組みを検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	通勤、通学需要の取り込み
取組内容	・朝の桜井駅方面の通勤・通学利用者の移動ニーズに基づく公共交通を利用しやすい仕組み作りの検討
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通と観光地等が連携した公共交通アクセスの確保や利用の促進
取組内容	・県内外からの公共交通を利用する観光客に対する、観光地等と連携した観光プランを提供するとともに、にぎわい創出の取組を検討
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	交通事業者と市関係施設が連携した公共交通利用促進
取組内容	・市関係施設との連携による公共交通利用促進のイベント等を検討・実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加、施設利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の運行事業
取組内容	・点在する世界遺産構成遺産候補、商業施設や観光施設など交通手段が乏しく移動のサービスレベルが低い地域においてデマンド乗合交通を運行
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルートの作成
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成・周知
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	池之内地区の公共交通空白地解消
取組内容	・公共交通の空白地である池之内地区の公共交通アクセスの確保を検討
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	公共交通空白地解消
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	桜井市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を見込んだ取組
取組内容	・世界遺産登録を見込み、観光客の受け入れ体制の検討・実施および、周遊観光の検討・実施 ・自動車利用から公共交通利用への転換と桜井～明日香方面の移動円滑化を図るため、桜井駅周辺にパーク＆ライド駐車場の整備を検討・実施 ・観光客及び住民の利用を促すため、桜井飛鳥線をNAFIC及び万葉文化館まで延伸し、土日祝を増便する実証運行を実施
実施主体・協力主体	桜井市、明日香村、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスでの活用
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	ガイド付きグリーンスローモビリティ運行事業
取組内容	・飛鳥京歴史ゾーンエリアにおけるガイド付きグリーンスローモビリティによる史跡や施設等ツアーの実証実験の実施
実施主体・協力主体	明日香村
実施効果	マイカー流入の抑制を図りながら、公共交通への利用転換
実施期間	R8.1～

中部Bグループ

(関係市町村: 榎原市、高取町、明日香村、大淀町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
橿原市、高取町、明日香村、大淀町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR: 桜井線(万葉まほろば線) 和歌山線
 - ・近鉄: 大阪線 橿原線 南大阪線 吉野線
 - ・奈良交通: 飛鳥線 八木下市線
 - ・コミバス: 橿原市コミュニティバス、よどりバス(大淀町)
 - ・デマンド: あすかデマンド乗合交通(明日香村)、よどりタクシー(大淀町)
- **主な利用データ**
 - ・JR 畷傍駅 乗車人員 633人/日(R6)
 - ・大和八木駅 乗降人員 34,158人/日(R6)
 - ・橿原神宮前駅 乗降人員 16,353人/日(R6)
 - ・壺阪山駅 乗降人員 970人/日(R6)
 - ・飛鳥駅 乗降人員 1,930人/日(R6)
 - ・下市口駅 乗降人員 1,769人/日(R6)
 - ・飛鳥線A: 5診断指標達成(R7)
 - ・飛鳥線B: 5診断指標のうち、収支率が未達成(R6~)
 - ・八木下市線: 5診断指標のうち、収支率が未達成(H30~)
- **関係情報**
 - ・「飛鳥・藤原」世界文化遺産登録(R8年予定)※「石舞台古墳」を始めとする世界文化遺産構成資産候補が19箇所所在
 - ・明日香村新庁舎が令和5年5月に開庁

- ・星野リゾートが宿泊施設開業予定(R9年予定)
- ・飛鳥駅南側の見瀬池に「スーパーエバグリーン飛鳥店」が開業(R6.4月~)
- ・令和5年度及び6年度にキトラ古墳等を巡る自動運転バスの実証実験を実施
- ・キトラ古墳壁画、高松塚古墳修復作業室公開
- ・牽牛子塚古墳が整備公開(R4.3月~)
- ・例年2~3月ごろに、「あすかいちご列車」(近鉄)、「あすかいちごバス」(奈良交通)を運行され、好評
- ・高取町では、11月「たかとり城まつり」に、多くの観光客が来訪
- ・稲渚の棚田は、日本の棚田百選、奥飛鳥の文化的景観に選定されている
- ・電車通学により下市口駅で乗降する小中学生が約300人/日おり、福神駅や六田駅からの利用が多い
- ・「奈良世界遺産フリーきっぷ」「古代ロマン飛鳥日帰りきっぷ」(鉄道と路線バスがセットになったフリーきっぷ)を販売中
- ・高松塚古墳壁画の新しい保存展示施設が国営飛鳥歴史公園内にオープン予定(R11までに)
- ・橿原市内にシェアサイクルポート設置
- ・橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畷傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12~)
- ・奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW & LOOP」プロジェクト始動(R6年12月~)
- ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月~R8年3月)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・八木下市線: 診断指標5項目の達成

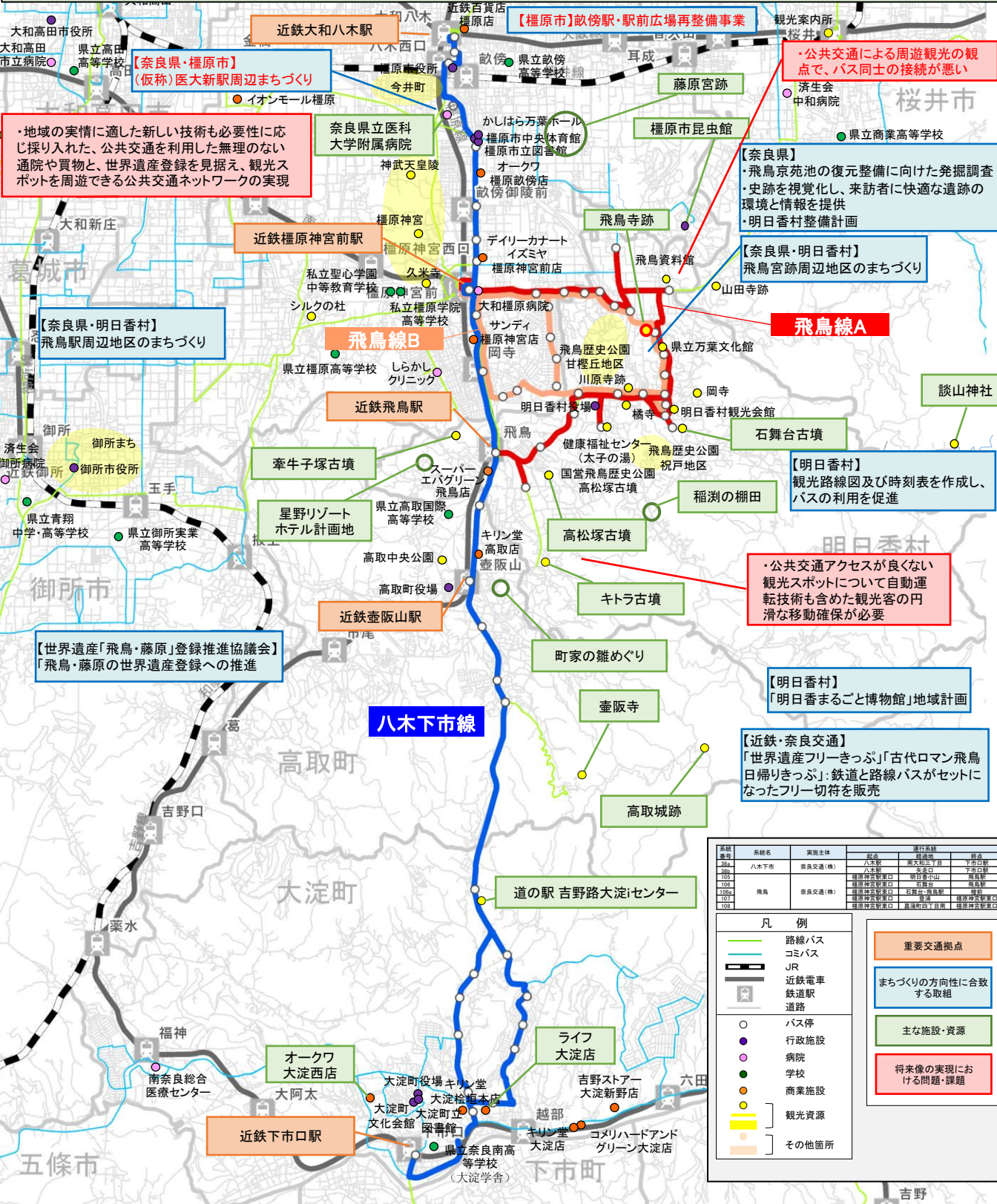
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 明日香周遊バス(赤かめ)は橿原神宮前駅から明日香村内主要施設等を経由し飛鳥駅までを周遊運行しており、生活の足としても重要
 - 近鉄吉野線は生活路線である一方、著名観光地である飛鳥・吉野方面への観光路線としても機能
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 世界遺産登録を見据え、沿線に点在する観光地を公共交通で周遊できるネットワーク整備が必要
 - 明日香村役場新庁舎や星野リゾート等、新施設へのアクセス手段をどのように確保するか

取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討
- 観光客向け —
- 【目標】公共交通を利用した周遊観光のための取組実施
 - 公共交通を活用した王道周遊ルート(ゴールデンルート)の組成・周知・浸透
 - デジタル技術等を活用した新たな交通サービスの検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

バスカルテ		1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額	
		【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	×	【基準】2,000円以下	○
八木下市線	令和7年度	12.6	○	2.2	○	22	○	25.9	×	529	○
	令和6年度	12.6	○	2.6	○	24	○	32.1	×	533	○
飛鳥線A	令和7年度	14	○	5.0	○	37	○	60.5	○	302	○
	令和6年度	14.7	○	5.2	○	23	○	64.6	○	43	○
飛鳥線B	令和7年度	10.4	○	2.7	○	15	○	34.7	×	281	○
	令和6年度	9.7	○	2.9	○	18	○	39.7	×	48	○

: 重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	住民の超高齢化への対応と公共交通による世界遺産周遊を実現する公共交通ネットワークの構築
取組内容	・超高齢化社会等社会情勢の変化、新庁舎開庁に応じた、生活に必要な移動手段の確保 ・飛鳥駅周辺を拠点として、自動運転も含めた、各観光資産・施設を周遊出来る交通体系づくり
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
実施期間	R4.12～

取組名	飛鳥駅への路線バス乗入れの検討
取組内容	・地域の玄関口である飛鳥駅の結節点機能強化として八木下市線の乗入れを検討
実施主体・協力主体	橿原市、高取町、明日香村、大淀町、奈良交通、奈良県
実施効果	利便性の向上、安全性の向上
実施期間	H28.4～

取組名	観光客向けモデルルートの作成
取組内容	・国営飛鳥歴史公園を含む各観光施設等を公共交通で巡る観光モデルルートを作成・周知し、公共交通の利用者増加を図るとともに、快適な移動環境の提供を図る
実施主体・協力主体	沿線市町村、近畿日本鉄道、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
実施期間	R5.4～

取組名	住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の運行
取組内容	・点在する世界遺産構成遺産候補、商業施設や観光施設など交通手段が乏しく移動のサービスレベルが低い地域においてデマンド乗合交通を運行
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.12～

取組名	住民向けのモデルルートの作成・展開
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開
実施主体・協力主体	沿線市町村、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を見据えた取組検討
取組内容	・世界遺産登録を見据え、観光客の受け入れ体制の検討および、周遊観光の検討・実施 ・域内の自動車利用増大を抑えるため、転換と明日香方面の移動円滑化を図るため、パーク&ライド駐車場の整備を検討・実施
実施主体・協力主体	沿線市町村、交通事業者、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	周辺施設と連携した利用者インセンティブ施策や駅舎等の施設の利活用の実施
取組内容	・周辺施設と連携したインセンティブ施策や、駅舎等の利活用に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	沿線市町村、近畿日本鉄道、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	鉄道・バスフリーきっぷの課題分析と今後の取組検討・実施
取組内容	・鉄道・バスフリーきっぷの利用をさらに積み増すための課題分析と今後の取組について。検討・実施
実施主体・協力主体	明日香村、奈良交通、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	新たな小型モビリティ等による周遊性の拡充
取組内容	・村内を隅々まで快適に周遊できる環境づくりの検討
実施主体・協力主体	明日香村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

○中部Bにおける重点取組事項について

○住民の超高齢化への対応と公共交通による世界遺産周遊を実現する公共交通ネットワークの構築

重点取組事項のねらい	地域の実情に適した新しい技術も必要性に応じ採り入れた、公共交通を利用した無理のない通院や買物と、世界遺産登録を見据え、観光スポットを周遊できる公共交通ネットワークの実現
実施効果	公共交通利用者の増加、利便性の向上
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R5)	2年目(R6)	3年目(R7)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者における中長期的な乗務員不足と地域の周遊需要に対応した、自動運転とデマンド交通の実証実験 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果等を踏まえた、翌年度以降明日香村及び周辺市町村で実施する施策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 明日香村及び周辺市町村での施策実施
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例や成功事例の提供、企画に対する支援、関係者間調整 	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例や成功事例の提供、企画に対する支援、関係者間調整
	明日香村(、橿原市、高取町、大淀町)※1	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行 近鉄飛鳥駅の拠点機能の強化(八木下市線乗入調整) 電動三輪車(側車付き軽二輪)による観光二次交通の実証実験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果の交通ネットワークへのフィードバック検討 電動三輪車(側車付き軽二輪)による観光二次交通の導入検討 パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む) 	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む)
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光拠点を結ぶ小型バスによる自動運転実証運行 住民・来訪者双方が使えるデマンド交通の実証運行 (近鉄飛鳥駅の拠点機能の強化(八木下市線乗入調整)) 利用データの整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度実証結果の交通ネットワークへのフィードバック パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む) 	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライド等、明日香村及び周辺市町村(橿原市、高取町、大淀町)との調整を要する取組事項の実施に向けた検討(八木下市線乗入調整含む)
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業

中部Cグループ

(関係市町村：橿原市、御所市、高取町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
橿原市、御所市、高取町
- **主な公共交通機関**
 - ・ JR 桜井線 和歌山線
 - ・ 近鉄 大阪線 南大阪線 吉野線 橿原線
 - ・ 奈良交通 八木御所線
 - ・ コミュニティバス: 橿原市コミュニティバス、ひまわり号(御所市)
- **主な利用データ**
 - ・ JR御所駅 乗車人員 633人/日(R6)
 - ・ JR掖上駅 乗車人員 93人/日(R6)
 - ・ 近鉄御所駅 乗降人員 2,525人/日(R6)
 - ・ 大和八木駅 乗降人員 34,158人/日(R6)
 - ・ 橿原神宮前駅 乗降人員 16,353人/日(R6)
 - ・ 八木御所線: 5診断指標のうち、収支率が未達成(R2~)
- **関係情報**
 - ・ 御所ICに隣接する地域では、奈良県と協働で自立的な地域経済構造の構築を目指した産業集積地の整備を図っている

- ・ 産業集積地を含めた御所IC付近のエリアを新たな工業区域ゾーンとして位置づけ、比較的大規模な製造業・物流業の立地を促進し、魅力的な雇用の場の創出に向けた産業基盤の構築を図っている
- ・ 「橿原市地域公共交通計画」(R5.3月)に基づき各種施策を推進
- ・ 御所まちの銭湯を中心としたまちづくり「GOSE SENTO HOTEL」がオープン(R4.10月)
- ・ JR御所駅に交流スペース「まちかど案内所」を整備(R2.3月)
- ・ 和歌山線五条駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売(R7年秋)
- ・ **橿原市内にシェアサイクルポート設置**
- ・ JR西日本の月刊情報誌(イベント・グルメ・旅情報等を掲載)「西Navi」10月号に御所市を特集
- ・ 橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畝傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12~)
- ・ **主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月~R8年3月)**

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・ 八木御所線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成

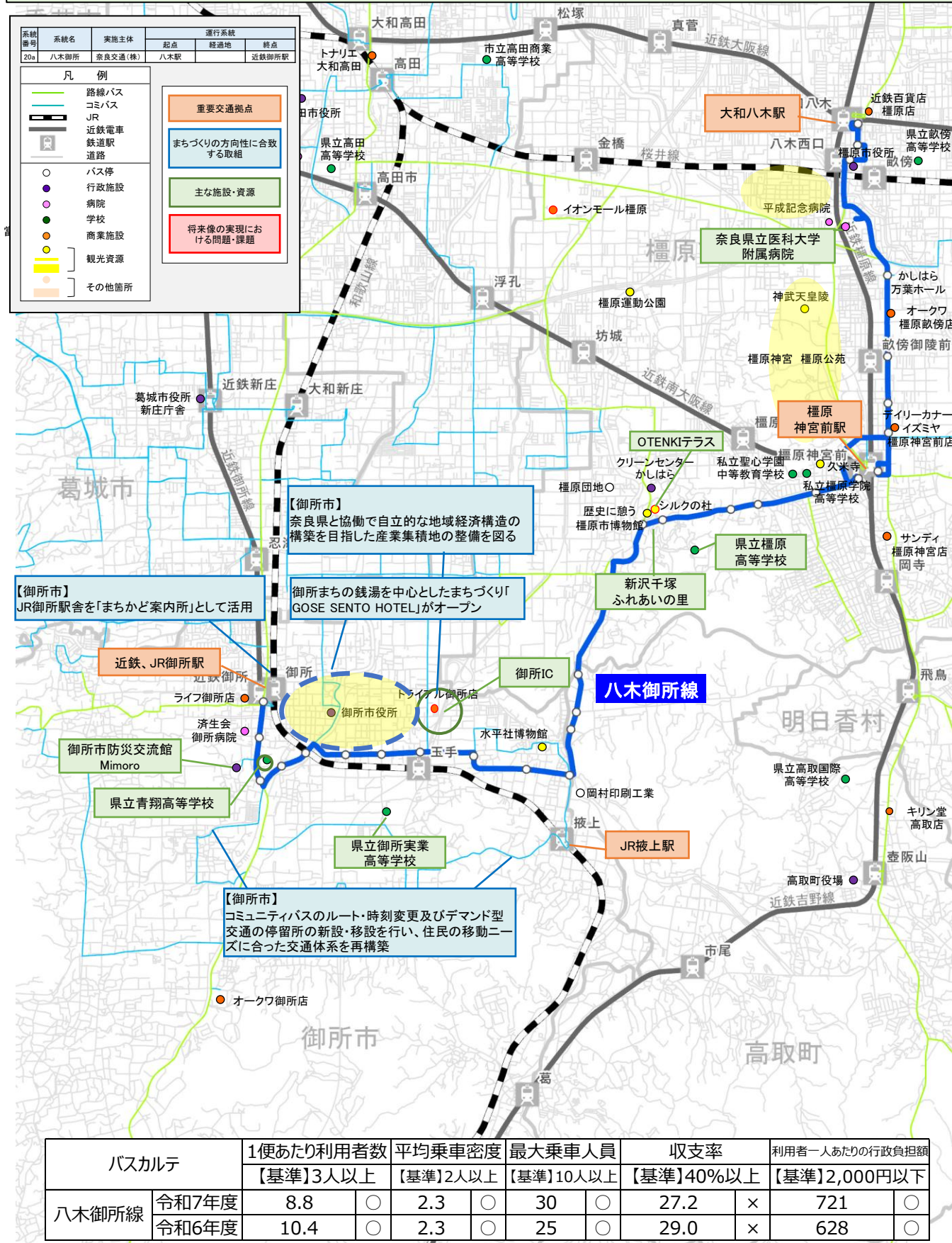
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 八木御所線沿線に4つの高等学校が立地している
 - 御所IC周辺では、産業集積地の整備を予定しており、企業立地による新たな通勤需要の発生が見込まれる
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 企業立地にあわせて、公共交通の利用環境を整備する必要がある
 - 商業施設、病院等の利用者の大半が自家用車を利用しており、公共交通利用増に向け、移動手段の確保、各施設と連携した取組の検討が必要
 - 学生の公共交通利用促進増に向けどのような仕掛けを行うか

取組の方向性

- 住民向け —
 - 【目標】買い物・通院等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 駅員が常駐しない駅を活用する取組を実施
 - 学生の公共交通利用促進に向けた取組の実施
- 観光客向け —
 - 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 滞在型観光者増に向けた観光イベントの企画・実施
 - デジタル技術活用による需要創出
- 現在誘致している御所IC周辺企業向け —
 - 【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施
 - 企業誘致事業と連携した公共交通利用促進の取組実施
 - 公共交通を利用した通勤のPR及びインセンティブ付与の検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	近鉄・JR御所駅の交通拠点としての機能強化
取組内容	・近鉄・JR御所駅が一体となった駅前空間の整備や御所中心市街地地区のまちづくりを進め、交通拠点としての機能強化を検討・実施する
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、交通事業者
実施効果	鉄道駅の交通拠点機能強化
実施期間	R5.4～

取組名	JR御所駅及び掖上駅の活用
取組内容	・JR御所駅舎を、市が管理する「まちかど案内所」として引き続き活用 ・JR掖上駅についても同様に、駅舎改良等による地域拠点としての活用を検討
実施主体・協力主体	御所市、奈良県
実施効果	地域公共交通の利便性の向上、地域活性化
実施期間	R6.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域住民参画による移動手段の確保の検討
取組内容	・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る
実施主体・協力主体	橿原市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通と観光分野が連携した観光イベントの企画・実施
取組内容	・滞在型観光者の増を図るため、公共交通と観光分野が連携して観光イベントの企画・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、高取町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通を利用する滞在型観光者増
実施期間	R5.4～

取組名	移動ニーズに応じた公共交通モードの提供
取組内容	・商業施設、病院等の利用者の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた公共交通モードを検討し、自家用車から公共交通利用への転換を図る
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、高取町、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R4.4～

取組名	公共交通利用促進策の実施
取組内容	・公共交通の利用促進を促す施策を検討・改善・実施
実施主体・協力主体	橿原市、御所市、奈良県
実施効果	公共交通利用者増
実施期間	R5.10～

誘致している御所IC周辺企業向けの取組

取組名	企業誘致事業と連携した公共交通利用促進
取組内容	・企業誘致担当部局と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R6.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通、橿原市、御所市
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	停留所方式のデマンド交通の導入
取組内容	・集落が点在している市南部の公共交通手段を確保するため、利便性の高い停留所方式のデマンド交通を導入
実施主体・協力主体	御所市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	(実証運行)R5.1～R7.3 (本格運行)R7.4～

中部E-1グループ

(関係市町村：大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 桜井線・和歌山線
 - ・近鉄 橿原線 御所線 大阪線 田原本線 南大阪線
 - ・奈良交通(高田新家線 高田イオンモール線 高田五條線)
 - ・コミュニティバス: きぼう号(大和高田市)、れんかちゃんバス(葛城市)、広陵元気号
- **主な利用データ**
 - ・JR高田駅 乗車人員 2,123人/日(R6)
 - ・JR金橋駅 乗車人員 666人/日(R6)
 - ・近鉄大和高田駅 乗降人員 13,770人/日(R6)
 - ・近鉄大和八木駅 乗降人員 34,158人/日(R6)
 - ・近鉄高田市駅 乗降人員 6,266人/日(R6)
 - ・近鉄尺土駅 乗降人員 4,103人/日(R6)
 - ・近鉄忍海駅 乗降人員 1,357人/日(R6)
 - ・近鉄箸尾駅 乗降人員 1,344人/日(R6)
 - ・高田新家線: 5診断指標達成(R7)
 - ・高田イオンモール線: 5診断指標達成(R7)
 - ・高田五條線: 5診断指標達成(R7)
- **関係情報**
 - ・大和高田市シビックコア周辺地区の整備(市役所新庁舎完成(R3.7月))により都市機能の集積とにぎやかな交流拠点を創出

- ・大和高田市のコミュニティバスは鉄道や路線バスとの連携を図り、地域交通ネットワークの形成を推進している
- ・「大和高田市地域公共交通計画(R4.3月)」交通結節点となる駅前まちづくりの推進、路線バスや病院送迎バス等との連携等の検討
- ・広陵町地域公共交通計画策定(R4.3月)に基づく運行再編(R5.7月: 予約型乗合バス「のるーと広陵元気号」の運行開始、R7.4月: 中央幹線ダイヤ・ルートの再編)
- ・住民アンケート及びワークショップの結果に基づいた運賃設定にしている(広陵元気号、のるーと広陵元気号)
- ・近鉄大和高田駅が市町境近くにあるため、効率的な公共交通ネットワークの検討には、市町の連携が重要
- ・**橿原市内や広陵町内にシェアサイクルポート設置(R6～)**
- ・橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畝傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12～)
- ・葛城市當麻庁舎エリアに図書館、プレイスペース、市民活動センター、市役所窓口などが一体となった複合施設をオープンし、まちのにぎわいを創出。(R9年予定)
- ・奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW&LOOP」プロジェクト始動(R6年12月～)
- ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月～R8年3月)
- ・広陵町陣痛タクシーサービスを開始(R7.5月～)

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・対象のバス路線: 診断指標5項目の達成
- ・JR金橋駅・近鉄箸尾駅の利用促進施策の実施
- ・エリアとして公共交通の利用促進に寄与することができる施策の実施

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

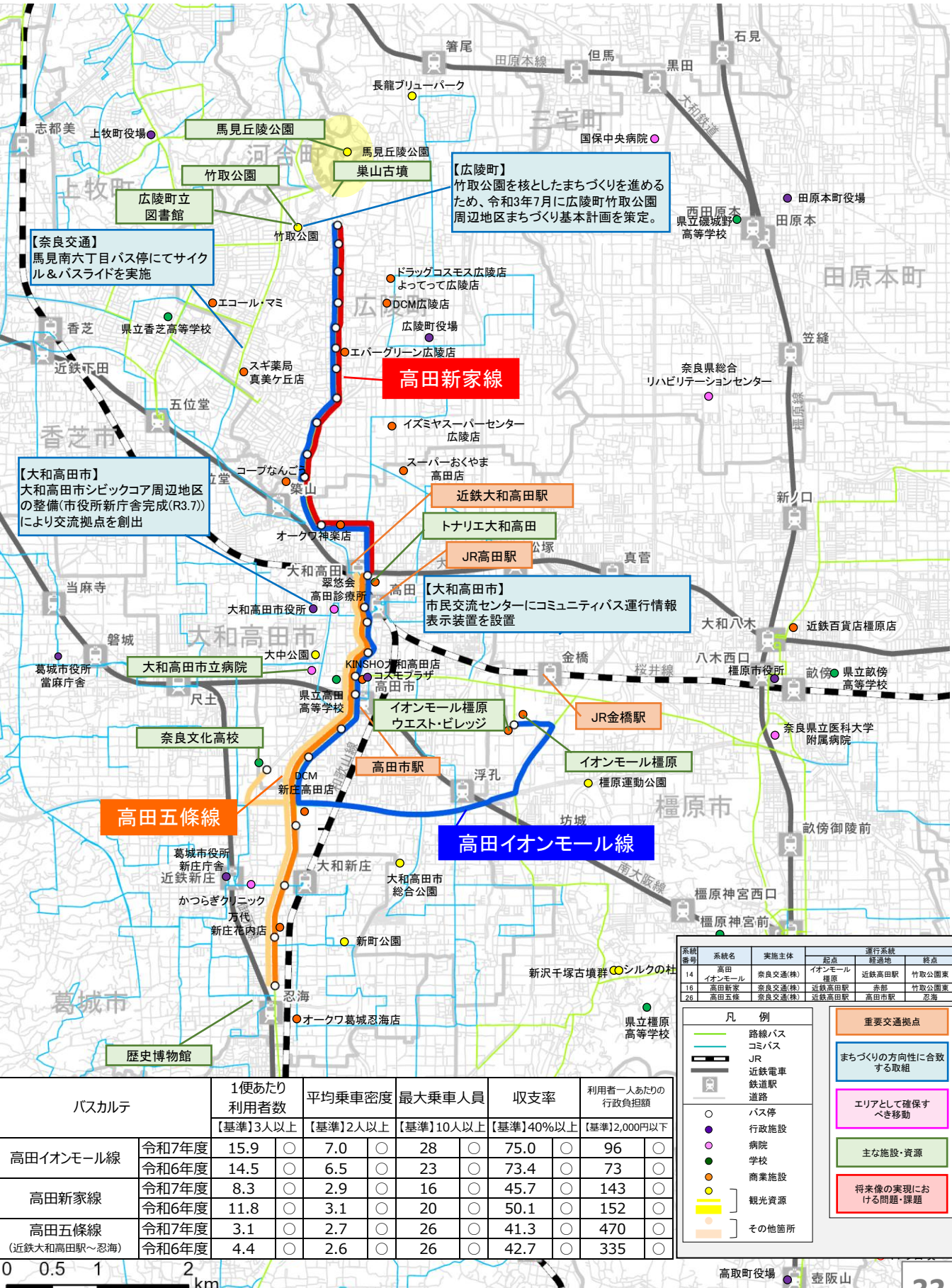
- 【位置付け】
- 高田新家線、高田五條線はともに通勤・通学の利用が多い
 - 高田3駅エリアが地域の核として機能しており、3駅エリアのアクセス手段としてバスが機能し、バス路線の沿線にはイオンモール橿原、トナリエ大和高田、コスモプラザ等多くの施設が立地
- 【課題】
- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 上記施設は、自家用車での利用が多いため、公共交通利用への転換を図る仕掛けが必要
 - JR金橋駅は需要が大きいイオンモール橿原の最寄り駅であるものの、利用者数が一日あたり605人と少なくなっている
 - バス停の待合環境の改善や、駅のバス停から各施設へ傘をささずに行けるような利用環境の改善が必要
 - **南都銀行馬見支店と箸尾支店の統合により、路線バス通勤者等に影響が及ぶ予測ができるため、沿線企業への利用促進等が必要**

取組の方向性

- ー 住民向けー
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 鉄道ー路線バスの乗り継ぎ利便性の向上と待合環境、利用環境の向上
- デジタル技術等を活用した新たな利用促進策の取組立案と効果的な情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



バスカルテ		1便あたり利用者数	平均乗車密度	最大乗車人員	収支率	利用者一人あたりの行政負担額
		【基準】3人以上	【基準】2人以上	【基準】10人以上	【基準】40%以上	【基準】2,000円以下
高田イオンモール線	令和7年度	15.9	7.0	28	75.0	96
	令和6年度	14.5	6.5	23	73.4	73
高田新家線	令和7年度	8.3	2.9	16	45.7	143
	令和6年度	11.8	3.1	20	50.1	152
高田五條線 (近鉄大和高田駅～忍海)	令和7年度	3.1	2.7	26	41.3	470
	令和6年度	4.4	2.6	26	42.7	335

系統番号	系統名	実施主体	運行系統	経路	終点
14	高田イオンモール線	奈良交通(株)	イオンモール橿原	近鉄高田駅	竹取公園東
16	高田新家線	奈良交通(株)	近鉄高田駅	赤部	竹取公園東
26	高田五條線	奈良交通(株)	近鉄高田駅	高田市駅	忍海

凡例

- 路線バス
- コミュニティバス
- JR
- 近鉄電車
- 鉄道
- バス停
- 行政施設
- 病院
- 学校
- 商業施設
- 観光資源
- その他箇所

重要交通拠点

まちづくりの方向性に合致する取組

エリアとして確保すべき移動

主な施設・資源

将来像の実現における課題・課題

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図(Vector(仮称)提供実験)」(国土地理院)のデータをもとに、コンバージョンGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

取組名	3駅エリアを核としたまちづくりとの連携
取組内容	・JR駅と近鉄駅の導線整備にあわせて、公共交通の利用促進を図る取組の検討・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	通勤・通学需要の取込
取組内容	・通学や通勤時に自家用車を利用している層を公共交通利用に取り込むための取組や多様な交通モードを検討・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、葛城市、広陵町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	地域住民参画による移動手段の確保の検討
取組内容	・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る
実施主体・協力主体	橿原市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	健診時のタクシーチケット交付事業(実証実験)
取組内容	タクシー利用の基盤構築のため、交通弱者である妊産婦に対し、妊婦・産婦・乳幼児健診時のタクシー移動の際に利用出来る電子タクシーチケットを交付
実施主体・協力主体	広陵町・タクシー事業者・システム事業者(GO株)
実施効果	タクシー利用の基盤構築、交通弱者支援
実施期間	R6.10～

取組名	地域公共交通計画・利便増進計画改訂事業
取組内容	令和9年3月末に期限満了となる、第1期地域公共交通計画・利便増進計画の改訂を行う
実施主体・協力主体	広陵町・国・奈良県・交通事業者・コンサル事業者
実施効果	地域に合致した効果的な公共交通施策の提供を可能とする。
実施期間	R8.4～

取組名	複数の交通モード間の円滑な移動の確保ならびに待合環境の改善
取組内容	・ダイヤ調整等により複数の交通モード(鉄道・バス)などの乗り継ぎ利便性を向上させるとともに隣接施設と連携しバス停等の待合環境改善に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通、沿線施設管理者、大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町
実施効果	公共交通の利便性向上、待合環境の向上
実施期間	R5.4～

取組名	デジタル技術の活用及び、デジタル技術の使い方の講座等の実施
取組内容	・デジタル技術を活用した公共交通の利便性向上を図る取組を検討・実施するとともに、デジタル技術に慣れていない人へのデジタル技術活用方法の周知方法を検討・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	工業団地の従業員の移動手段の確保の検討
取組内容	R7年度から操業が随時開始している箸尾工業団地(9社予定)における従業員の通勤手段について、コミュニティバスのルート再編、企業輸送バス等の各種移動手段の検討を行う
実施主体・協力主体	広陵町、交通事業者、工業団地事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R8.4～

取組名	沿線施設と交通事業者が連携した公共交通利用への転換
取組内容	・沿線施設(商業施設・病院施設)の利用は、自家用車利用が多く、公共交通(バス・鉄道)利用者が少ないことから、沿線施設と交通事業者が連携した公共交通利用への転換を図る取組の検討・実施
実施主体・協力主体	交通事業者、沿線施設管理者、大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	コミュニティバスの広告スペースを活かした「移動美術館」の実施
取組内容	市内公立小中学生が「葛城市」をテーマに考案したデザインをコミュニティバスの車内広告スペースに展示する「移動美術館」を実施し、コミュニティバスの利用者の増加を狙う。
実施主体・協力主体	葛城市、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R8.1～

取組名	地域公共交通基本計画策定事業
取組内容	令和9年3月末に期限満了となる、第1期地域公共交通基本計画の更新作業
実施主体・協力主体	葛城市、コンサル事業者、国、県
実施効果	質の高い公共交通を提供するためのマスタープラン
実施期間	R8.4～

中部E-2グループ

(関係市町村:大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市)

路線・地域の概要

- 関係市町村**
大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市
- 主な公共交通機関**
 - ・JR 和歌山線 桜井線(万葉まほろば線)
 - ・近鉄 橿原線 南大阪線 大阪線 御所線
 - ・奈良交通(八木五條線 高田五條線 八木新宮線)
 - ・コミュニティバス:きぼう号(大和高田市)、橿原市コミュニティバス、五條市コミュニティバス、ひまわり号(御所市)、れんかちゃんバス(葛城市)
- 主な利用データ※**

・JR高田駅	乗車人員	2,123人/日(R6)
・JR五條駅	乗車人員	972人/日(R6)
・近鉄二上山駅	乗降人員	1,171人/日(R6)
・近鉄大和高田駅	乗降人員	13,770人/日(R6)
・近鉄大和八木駅	乗降人員	34,158人/日(R6)
・近鉄高田市駅	乗降人員	6,266人/日(R6)
・近鉄忍海駅	乗降人員	1,357人/日(R6)
- 関係情報**
 - ・八木新宮線は高速道路を使わない路線では日本一の走行距離

- ・「橿原市地域公共交通計画(R5.3月)」に基づき各種施策を推進
- ・御所市北部と南部エリアにおいて、令和7年4月からコミュニティバスとデマンド交通の本格運行を開始
- ・「五條市地域公共交通計画(第2次ゴーちゃん交通計画)(R4.3月)」に基づき検討を実施
- ・「大和高田市地域公共交通計画(R4.3月)」交通結節点となる駅前まちづくりの推進、路線バスや病院送迎バス等との連携等の検討
- ・「葛城市地域公共交通計画」を令和3年度に策定し、コミュニティバス等の再編に向け、新たな実証運行計画について検討を実施
- ・和歌山線五條駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売(R7年秋)
- ・JR西日本の月刊情報誌(イベント・グルメ・旅情報等を掲載)「西Navi」10月号に御所市を特集
- ・主に桜井線・和歌山線を走行する列車に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインを貼り付けた列車を運行(R7年8月~R8年3月)
- ・奥大和エリアの観光PRイベントをKITTE大阪で実施(土・日の2日間)(R7年11月)

- 令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・高田五條線、八木新宮線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 御所IC周辺では産業施設の立地誘導を検討している
 - 当該3路線は、買い物、通勤・通学、通院利用の他、観光、レジャーの目的で利用されている
 - 沿線近辺には、ハイキングコースとなっている葛城の道やかもきみの湯などが点在している
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 通勤・通学以外の利用者増に向け、潜在需要の取込と新たな交通需要を見つけることが必要
 - 企業立地にあわせて、公共交通の利用環境を整備するか
 - 公共交通利用増に向け、宿泊施設や温泉施設と連携した取組が必要

取組の方向性

- 住民向け—
- 【目標】買い物・通院等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 近鉄御所駅移設に併せた交通結節点の機能向上
- 学生の公共交通利用促進に向けた取組の実施

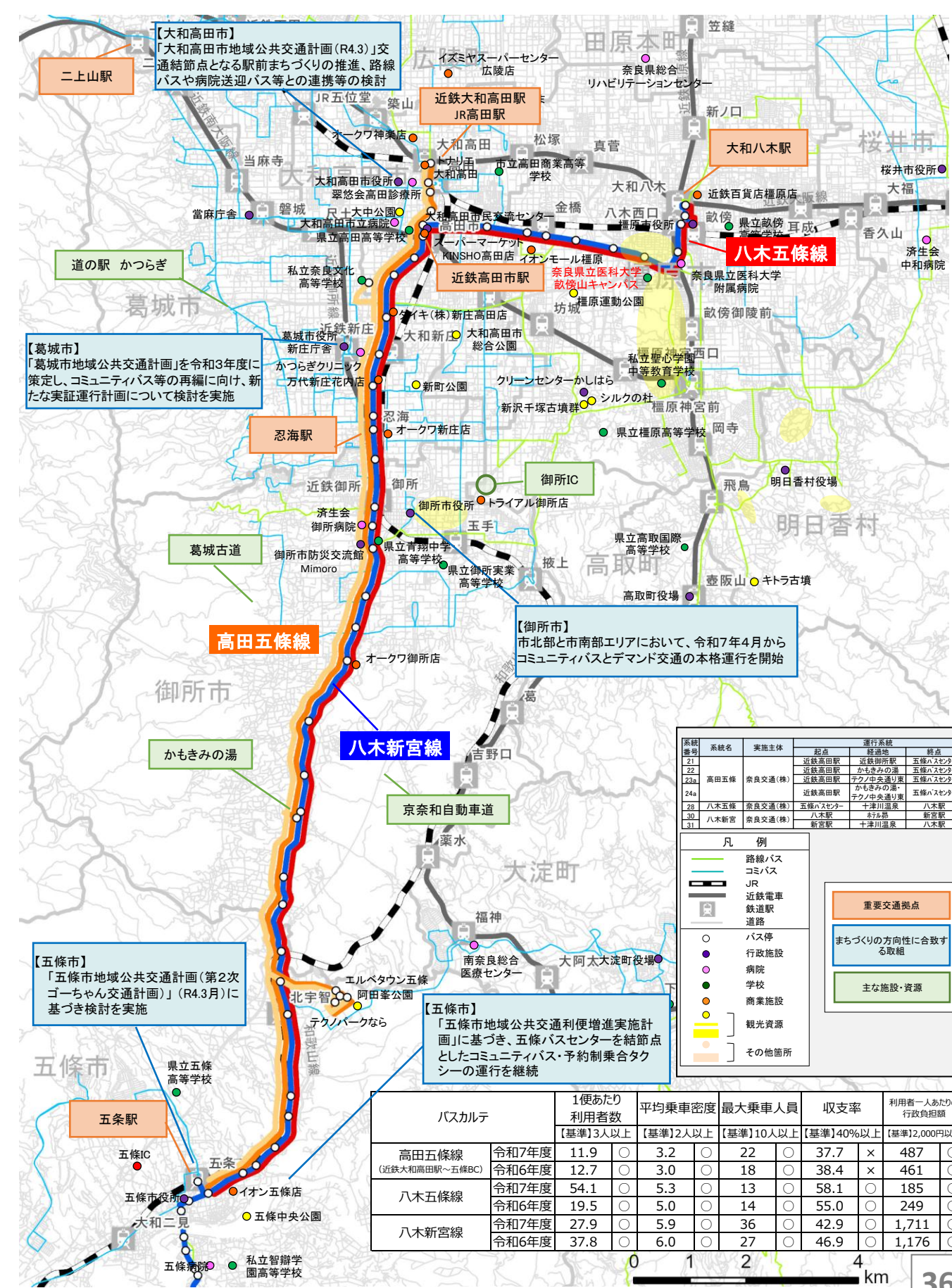
- 観光客向け—
- 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 公共交通を利用した観光モデルルートの立案・周知
- 既存のコミュニティバスと周辺施設が連携したにぎわい創出の取組検討

- 現在誘致している御所IC周辺企業向け—
- 【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施

- 企業誘致事業と連携した公共交通利用者拡大に向けた仕掛けの検討
- 公共交通を利用した通勤のPR及びピンセンティブ付与の検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンパニオンGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

取組名	市コミュニティバス等の運賃負担軽減の取組実施
取組内容	・市コミュニティバスの利用状況等を鑑み、利用者負担額を200円から100円にするなど、見直しを行い、利用者の運賃負担の軽減を実施する。
実施主体・協力主体	五條市、奈良県
実施効果	公共交通の運賃負担の軽減
実施期間	R6.4～

取組名	地域住民参画による移動手段の確保の検討
取組内容	・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る
実施主体・協力主体	橿原市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	住民向けワークショップ等を踏まえての新たな公共交通モードの運行の検討・実施
取組内容	・R5年度～R7年度に実施した住民との意見交換を踏まえ、各地区で新たな公共交通モードの検討 ・新たな形での運行に関する実証運行及び利用環境整備として予約システムの導入を検討
実施主体・協力主体	五條市、県、地域住民
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R7.4～

取組名	移動ニーズに応じた公共交通モードの提供
取組内容	・住民の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた公共交通モードを検討し、自家用車から公共交通利用への転換を図る
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R4.4～

取組名	五條市地域公共交通計画及び利便増進実施計画の策定
取組内容	実証運行の形も踏まえることや、中心市街地地区のまちづくりの計画を盛り込みながら、次期公共交通計画及び利便増進実施計画の策定を実施予定(計画時期:R9年度～R13年度)
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、五條二見交通、野原タクシー(五條市内タクシー会社)、奈良県、国
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R9年度～R13年度

取組名	近鉄・JR御所駅の交通拠点としての機能強化
取組内容	・近鉄・JR御所駅が一体となった駅前空間の整備や御所中心市街地地区のまちづくりを進め、交通拠点としての機能強化を検討・実施
実施主体・協力主体	御所市、奈良県、交通事業者
実施効果	鉄道駅の交通拠点機能強化
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	中心市街地地区のまちづくりの推進
取組内容	イオン五條店、五條バスセンターを含めたの中心市街地のまちづくりについて、地域の活性化やにぎわいの創出を目指し、 公民連携による(仮称)五條市市民交流施設を整備
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、商業施設、南都銀行
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.12～R11年度初旬

取組名	公共ライドシェア実証実験および時間帯交通空白調査分析
取組内容	・公共ライドシェアによる「地域の移動手段」の確保及び、運行に関するデータやアンケート調査等をもとにした時間帯による交通空白の調査・分析
実施主体・協力主体	大和高田市
実施効果	公共交通の利便性向上及び今後の課題解決検討
実施期間	R7.12.11～R8.1.31

取組名	五條市利便増進実施計画に基づくコミュニティバス等の運行継続
取組内容	・「五條市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、五條バスセンターを結節点としたコミュニティバス・予約制乗合タクシーの運行を継続
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、五條二見交通、野原タクシー(五條市内タクシー会社)、奈良県、国
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.9～R9.3

誘致している御所IC周辺企業向けの取組

取組名	企業誘致事業と連携した公共交通利用促進
取組内容	・企業誘致担当部局と連携し、通勤需要を取り入れるような取組の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良県、御所市、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R6.4～

観光客向けの取組

取組名	観光客向けモデルルート作成・展開
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルート作成・展開
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	既存のコミュニティバスと周辺施設が連携した観光イベントの企画・実施
取組内容	・滞在型観光者の増を図るため、コミュニティバスと周辺施設が連携して観光イベントの企画・実施
実施主体・協力主体	大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通を利用する滞在型観光者増
実施期間	R5.4～

南部A・Bグループ

(関係市町村：五條市、野迫川村、十津川村、大淀町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
五條市、野迫川村、十津川村、大淀町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 和歌山線
 - ・近鉄 吉野線
 - ・奈良交通(八木新宮線)
 - ・五條・十津川地域連携コミュニティバス
 - ・その他コミュニティバス: ゴーちゃんバス(五條市)、村営バス(野迫川村)、十津川村営バス、よどりバス(大淀町)
 - ・デマンド交通: ゴーちゃんタクシー(五條市)、よどりタクシー(大淀町) 村営タクシー郷土号(十津川村)
- **主な利用データ**
 - ・五條駅 乗車人員 972人/日(R6)
 - ・近鉄福神駅 乗降人員 1,789人/日(R6)
 - ・八木新宮線: 5診断指標達成(R6)
 - ・五條・十津川地域連携コミュニティバス: 5診断指標のうち、平均乗車密度、利用者1人あたりの行政負担額の2項目が未達成(R3~)

- **関係情報**
 - ・南和地域の中核病院である「南奈良総合医療センター」及び「五條病院」が立地している
 - ・十津川村にて、現在運行している村営タクシー郷土号の村外運行(和歌山県田辺市本宮町・和歌山県新宮市一部運行区)開始 ※五條方面は、現在検討中
 - ・R7.12月からR8.2月末まで、十津川村の路線バスでは行けない観光地を巡る村内宿泊者用周遊観光バスを運行 ※予算がなくなり次第終了
 - ・奈良交通においてR4.10月から八木新宮特急バスの一部便の走行ルートと停車停留所を短縮する観光特急「やまかぜ」を運行開始
 - ・「やまかぜ」について、観光客向けに、「賀名生和田北口」停留所(賀名生梅林最寄停留所)に停車(R6.10.1~)
 - ・和歌山線五條駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売(R7年秋)
 - ・奥大和エリアの観光PRイベントをKITTE大阪で実施(土・日の2日間)(R7年11月)

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・八木新宮線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成
- ・五條・十津川地域連携コミュニティバス: 診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
- 八木新宮線の五條以南は観光利用が多く、以北は通学など生活利用が多い
 - 五條・十津川地域連携コミュニティバスは、南部から乗換なしで通院できる唯一の便
 - 路線沿線には、谷瀬の吊り橋、十津川温泉等の観光施設が立地
- 【課題】
- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 南和地域の中核病院である「南奈良総合医療センター」及び「五條病院」が立地しており、広域のアクセス向上に向けてどのように取り組みを行っていく
 - 魅力ある観光地を観光客が公共交通で広域的に巡るための、観光施策と連携した取組の実施
 - 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや乗り方について住民向けに周知が必要

取組の方向性

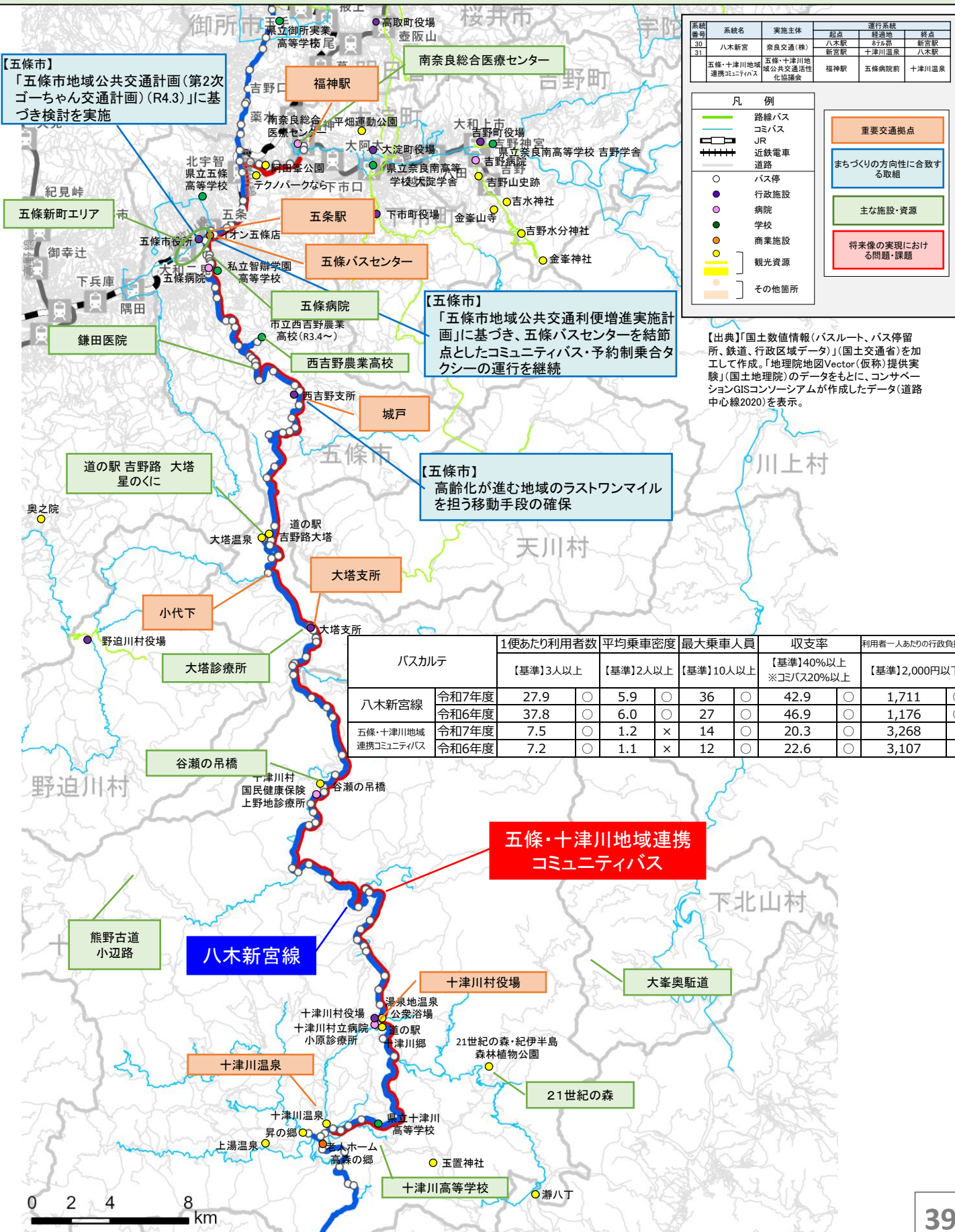
—住民向け—
【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや利用方法(自由乗降等)について効果的な広報の実施

—観光客向け—
【目標】公共交通を利用した滞在型観光のための取組実施

- 観光施設と連携した滞在プランの提供
- 拠点駅から観光施設までの移動手段の確保・充実
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化

まちづくりの方向性(イメージ図)



系統番号	系統名	実施主体	運行系統		
			起点	経路地	終点
30	八木新宮	奈良交通(株)	八木駅	新宮	新宮駅
31	五條・十津川地域連携コミュニティバス	五條・十津川地域公共交通活性化協議会	福神駅	五條病院前	十津川温泉

凡例	
	路線バス
	コミュニティバス
	JR
	近鉄電車
	道路
	バス停
	行政施設
	病院
	学校
	商業施設
	観光資源
	その他箇所

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

バスカルテ		1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額	
		【基準】13人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上 ※バス20%以上	○	【基準】2,000円以下	○
八木新宮線	令和7年度	27.9	○	5.9	○	36	○	42.9	○	1,711	○
	令和6年度	37.8	○	6.0	○	27	○	46.9	○	1,176	○
五條・十津川地域連携コミュニティバス	令和7年度	7.5	○	1.2	×	14	○	20.3	○	3,268	×
	令和6年度	7.2	○	1.1	×	12	○	22.6	○	3,107	×

住民向けの取組

取組名	幹線系統とデマンドバスとのアクセス確保
取組内容	・幹線系統につながるデマンドバスを運行することにより、より便利に移動ができるような仕組みづくりを実施する
実施主体・協力主体	野迫川村、奈良県
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民の公共交通の認知度向上による利用促進
取組内容	・乗り案内を作成・配布及び広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す
実施主体・協力主体	五條市、野迫川村、十津川村、大淀町、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民向けのモデルルートを作成・展開
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開する
実施主体・協力主体	五條市、野迫川村、十津川村、大淀町、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	五條市利便増進実施計画に基づくコミュニティバス等の運行継続
取組内容	・「五條市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、五條バスセンターを結節点としたコミュニティバス・予約制乗合タクシーの運行を継続する
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、五條二見交通、野原タクシー（五條市内タクシー会社）、奈良県、国
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.9～

取組名	住民向けワークショップ等を踏まえての新たな公共交通モードの運行の検討・実施
取組内容	・R5年度～R7年度に実施した住民との意見交換を踏まえ、各地区で新たな公共交通モードを検討する ・新たな形での運行に関する実証運行及び利用環境整備として予約システムの導入を検討する
実施主体・協力主体	五條市、県、地域住民
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R7.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRを実施する
実施主体・協力主体	五條市、野迫川村、大淀町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施する ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施する
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	中心市街地地区のまちづくりの推進
取組内容	イオン五條店、五條バスセンターを含めた中心市街地のまちづくりについて、地域の活性化やにぎわいの創出を目指し、 公民連携による(仮称)五條市市民交流施設を整備する
実施主体・協力主体	五條市、奈良交通、商業施設、南都銀行
実施効果	公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.12～ R11年度初旬予定

取組名	移動販売車による山間地域の買物支援
取組内容	買物が困難となっている山間地域において、高齢者に向けた暮らしのサポートとして、宅配サービス事業者と連携し、コミュニティバス等の運行と連動した移動販売車による買物支援を行い、地域住民の福祉の向上を図る
実施主体・協力主体	五條市
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.12～

観光客向けの取組

取組名	十津川村周遊観光バス運行事業
取組内容	・各観光名所を巡れる周遊観光バスを運行する
実施主体・協力主体	十津川村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加、宿泊客の増加
実施期間	R7.12～

取組名	旧城戸駅舎周辺の魅力向上及び周遊観光の促進
取組内容	・「幻の五新鉄道跡」である旧路線バス専用道及び西吉野町城戸地内にある「城戸駅舎」を活用し、エリアの魅力向上及び観光客誘致を図るとともに、周遊性確保の取組を検討・実施する
実施主体・協力主体	五條市、NPO法人、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

南部Cグループ

(関係市町村:大淀町、下市町、黒滝村、天川村)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
大淀町、下市町、黒滝村、天川村
- **主な公共交通機関**
 - 近鉄 吉野線
 - 奈良交通(八木下市線 下市笠木線 下市天川線 洞川線)
 - その他コミュニティバス:よどりバス(大淀町)、黒滝ふれあいバス、スクールバスほほえみ号(天川村)
 - デマンド交通:よどりタクシー(大淀町)
- **主な利用データ**
 - 近鉄下市口駅 乗降人数 1,769人/日(R6)
 - 洞川線:5診断指標達成(R6)
 - 下市天川線:5診断指標達成(R6)
 - 八木下市線:5診断指標のうち、平均乗車密度、収支率の2項目が未達成(R6)

- **関係情報**
 - 下市町、黒滝村、天川村では、村外への通院タクシー料金の一部を助成
 - 下市口駅でよどりバスに乗り継ぐことにより「南奈良総合医療センター」へのアクセスが可能
 - 空き校舎となる下市南小学校を利用して、民間と連携した複合施設「KITO」がオープン(R6.7~)
 - 空き校舎となる下市中学校を利用して地域交流拠点「下市集学校」がオープン(R5.9~)
 - 下市町地域交流拠点(KITO、下市集学校等)で下市町内移動支援として奈交バス乗車券を配布
 - 令和6年4月に観光案内、体験型コンテンツの発着点となる洞川温泉ビジターセンターが開業
 - 下市町では免許返納をした方に奈交バスの路線バス乗車券を配布(R7:200円×156枚)
 - 近鉄下市口駅にカーシェアを設置(R7~)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - 八木下市線:診断指標5項目の達成

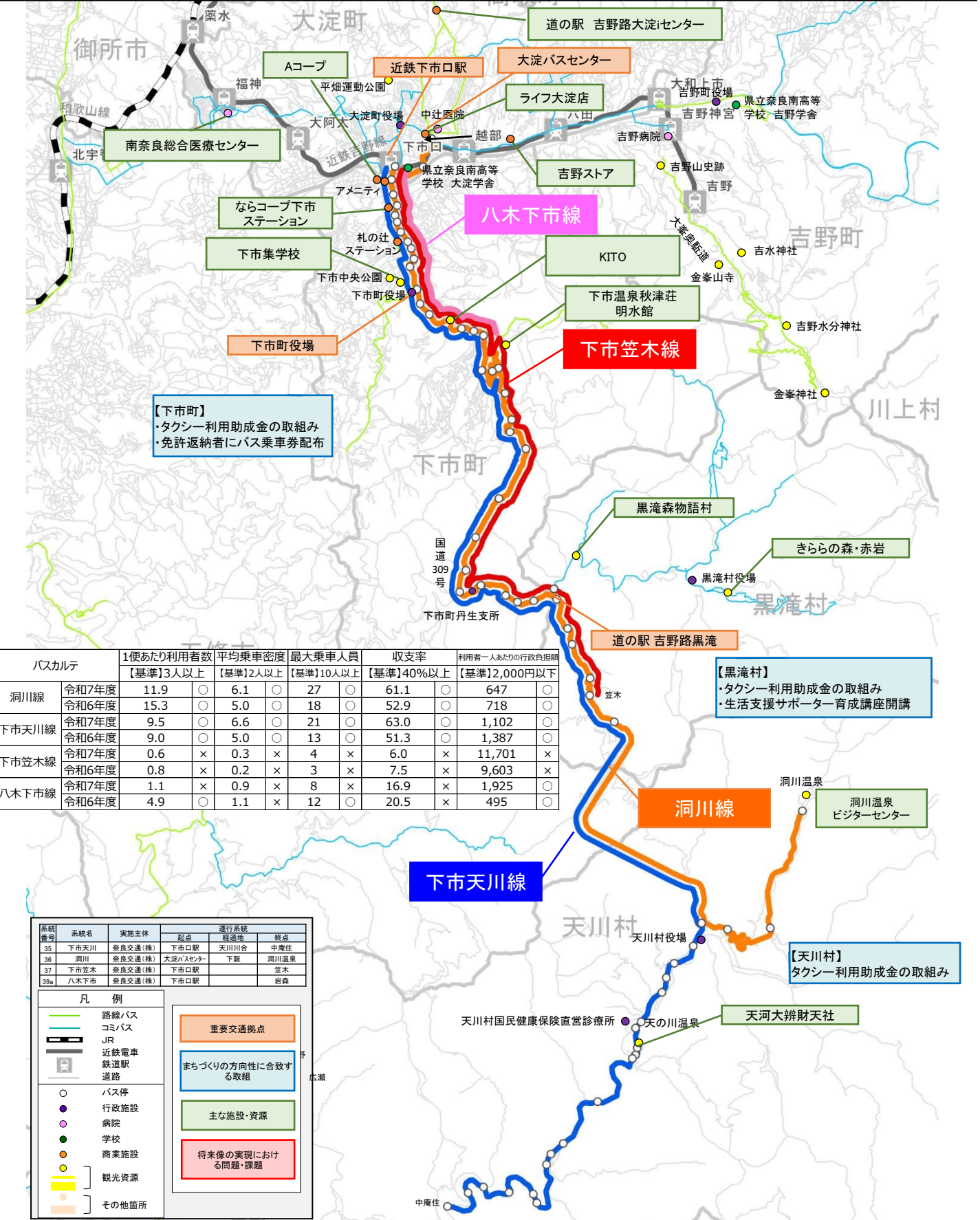
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 洞川温泉、黒滝森物語村、天河大辨財天社等、県内外から訪れる観光資源がある
 - 地域住民、特に免許を返納した高齢者等の通院(主に南奈良総合医療センター)や買い物に不可欠な移動手段
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 多くの観光客が自家用車で来訪しており、公共交通利用への仕掛けが必要
 - 観光客は天川村を訪れ、下市町、黒滝村は通過するだけとなっている
 - 南奈良総合医療センターへの移動は専ら自家用車となり、公共交通の利用が少ない

取組の方向性

- 住民向け—
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- タクシーと路線バスの連携により、商業施設や中核病院へのアクセスの向上を検討
- 路線バス・コミュニティバス等のダイヤや利用方法について効果的な広報の実施
- 観光客向け—
- 【目標】公共交通を利用した滞在型観光のための取組実施
- 観光施設・公共交通が連携した滞在プラン・観光モデルルートへの企画・周知
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化
- 天川村を訪れた人に路線バス沿線町村のPRの実施

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンソーシアムGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

: 重点取組事項

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	下市中学校空き校舎を活用した地域交流拠点「下市集学校」と公共交通の連携
取組内容	・下市中学校の空き校舎を活用し、令和5年9月にオープンした地域交流拠点として整備した施設に公共交通で来訪いただけるような取組として、公共交通で来訪された方に、帰りもしくは次の交流拠点までの乗車券の配布を行う
実施主体・協力主体	下市町、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.9～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRを実施する
実施主体・協力主体	大淀町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R6.4～

取組名	体験型複合施設「KITO FOREST MARKET SHIMOICHI」と公共交通の連携
取組内容	・下市南小学校の空き校舎を活用し、令和6年7月にオープンした複合施設「KITO FOREST MARKET SHIMOICHI」に公共交通で来訪いただけるような取組として、公共交通で来訪された方に、帰りもしくは次の交流拠点までの乗車券の配布を行う
実施主体・協力主体	下市町、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R6.7～

取組名	住民向けのモデルルートの作成・展開
取組内容	・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開する
実施主体・協力主体	大淀町、下市町、黒滝村、天川村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施する
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	洞川温泉ビジターセンターと公共交通の連携
取組内容	・令和6年4月にオープンした洞川温泉ビジターセンターに、公共交通で来訪いただけるような取組の検討を実施する
実施主体・協力主体	天川村、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民の公共交通の認知度向上による利用促進
取組内容	・乗り方案内や自由乗降の案内等を作成・配布及び広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す ・企画乗車券の導入により、地域住民の公共交通に関する認知度向上及び利用促進を図る
実施主体・協力主体	大淀町、下市町、黒滝村、天川村、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

その他の取組

取組名	貨客混載の取組強化
取組内容	・奈良交通洞川線において貨客混載の取組を強化する
実施主体・協力主体	奈良交通、県
実施効果	バスの生産性向上、物流網の効率化
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等にバスの便と便との間で散策しながら天川村まで行くモデルルートを作成する ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	大淀町、下市町、黒滝村、天川村、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

○南部Cにおける重点取組事項について

○観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施

重点取組事項のねらい	これまで天川村にしか訪れていなかった観光客を観光モデルルートを作成し発信することで、大淀町、下市町、黒滝村の魅力的なスポットに呼び込み、公共交通を利用する観光客の増加を図る
実施効果	公共交通の観光利用増および周辺地域のにぎわい創出
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R6)	2年目(R7)	3年目(R8)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 観光スポットの洗い出し バスのダイヤ状況確認し、散策可能時間を把握 散策可能時間と観光スポットをあわせ、具体的なルートを検討 必要に応じて他の交通モードの追加を検討 地図に落とし込み、マップを作成 広報先の整理 アンケート調査の内容・手法検討 観光部局との調整 インセンティブの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客向けモデルルートの発信 広報活動 アンケート調査様式を検討・作成 観光客向けモデルルートの発信 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客向けモデルルートの発信【継続】 広報活動の実施 アンケート調査、分析 次年度以降の事業について検討
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 アンケート調査の内容・手法検討 観光部局との連絡調整 インセンティブの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 広報活動の実施 アンケート調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 利用促進策に対する支援 広報活動の実施 アンケート調査結果分析 次年度以降の事業について検討
	※1 大淀町 下市町 黒滝村 天川村	<ul style="list-style-type: none"> 路線周辺の観光スポットの洗い出し バス停、観光スポット間や各観光スポット間の移動時間のと移送手段の検討 アンケート調査の手法検討 地図に落とし込み、マップを作成 広報先の整理 観光部局との調整 インセンティブの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 アンケート調査の内容を検討・作成 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 利用促進策の検討 マップを活用したさらなる利用促進の実施
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> よく訪れる観光スポット情報の提供 インセンティブにおける対応方法の検討 観光スポットの音声案内検討 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 アンケート調査の協力
関係する補助		公共交通基本計画推進支援事業	公共交通基本計画推進支援事業	公共交通基本計画推進支援事業

南部Dグループ

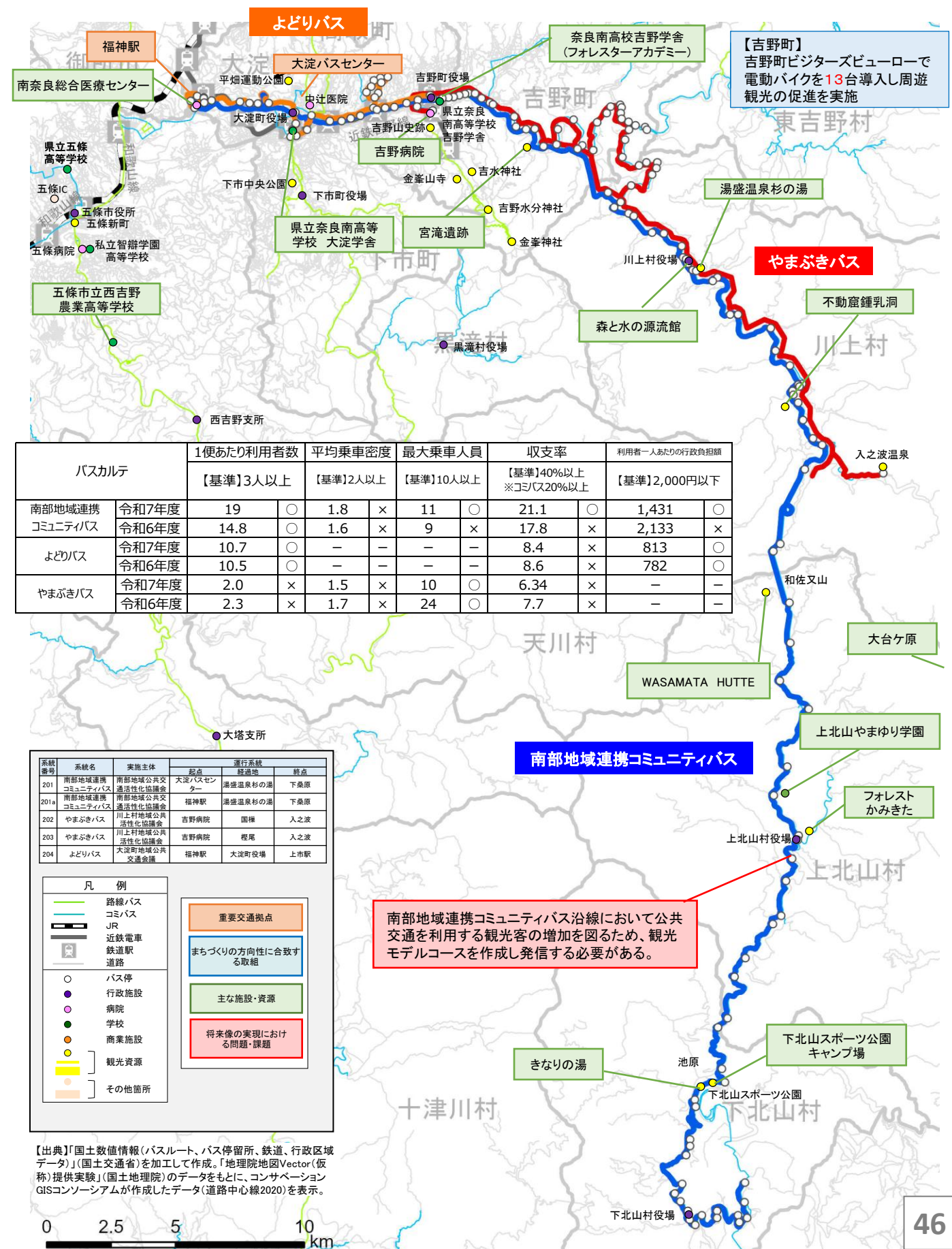
(関係市町村：吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
吉野町、大淀町、下北山村、上北山村
川上村、東吉野村
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄 吉野線
 - ・南部地域連携コミュニティバス(ゆうゆうバス)
 - ・コミュニティバス:スマイルバス(吉野町)、やまぶきバス(川上村)、よどりバス(大淀町)、ふるさと号(東吉野村)、上北山村コミバス、**下北山村内巡回バス**
 - ・デマンド交通:よどりタクシー(大淀町)
しもきた号(下北山村)
- **主な利用データ**
 - ・近鉄福神駅 乗降人員 1,789人/日(R6)
 - ・近鉄大和上市駅 乗降人員 313人/日(R6)
 - ・近鉄下市口駅 乗降人員 1,769人/日(R6)
 - ・南部地域連携コミュニティバス:5診断指標のうち、平均乗車密度、最大乗車人員、利用者1人あたりの行政負担額の**3項目**が未達成(R3~)

- **関係情報**
 - 【吉野町】
 - ・令和4年度にデマンドバス(スマイルバス)の本格運行を行い、デマンドバス、路線バスを含め、最適な交通体系の検討を実施
 - ・観光者向け2次交通として電動バイク13台購入
 - ・宮滝遺跡公園整備中
 - ・令和4年4月に新たなサテライトオフィス「YOSHINO GATEWAY」がオープン
 - ・近畿日本鉄道において、近鉄大和上市駅にシェアサイクルポート、近鉄下市口駅にカーシェアを設置(R7~)
 - 【上北山村】
 - ・令和7年度末、村内コミバスを再編予定
 - ・ヒルクライム大台ヶ原は、村人口より多くの方が訪れる自転車ロードレース
 - 【川上村】
 - ・デマンド乗合タクシーニコニコ号に新車両を導入し、運行エリアを村内全域に拡大(R4~)

まちづくりの方向性(イメージ図)



- **令和9年度に目標とすべき状況**
 - ・南部地域連携コミュニティバス、よどりバス、やまぶきバス:診断指標5項目の達成
 - ・**よどりバス** :個別に定めた目標値(利用者数37,000人/年、収支率10%)の達成
 - ・**やまぶきバス**:個別に定めた目標値(利用者数7,200人/年・26人/日、収支率9%)の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 南部地域連携コミュニティバス、よどりバス、やまぶきバスを運行し、地域内や広域の移動手段を提供しており、地域の足として必要不可欠な路線となっている
 - 沿線に観光地が点在しており、観光需要も見込める
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 自家用車を利用できない人の移動ニーズを満足する交通手段の提供が必要
 - 特別乗車券やコミュニティバスを利用した観光など、情報発信の工夫が必要
 - 運賃収入以外の収益源の確保についても検討する必要がある
 - 新たな乗務宿泊所の確保

取組の方向性

- 住民向け—
 - 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 無人駅の活用方法の検討・実施
- 観光客向け—
 - 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 滞在型観光を視野にいた公共交通を利用した観光モデルルート of 立案・周知
 - 観光地・温泉施設等と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
 - 観光地から村中心地に来訪者を引き込む取組の実施
- その他—
 - 【目標】ゆうゆうバスで運賃収入以外の収益源を確保し、収支改善や地域の魅力発信を実現する。
 - 車体へのラッピング広告による地域情報の発信
 - 貨客混載による地域の特産品の販路拡大

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンソーシアムGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

: 重点取組事項

住民向けの取組

取組名	鉄道駅舎の利活用
取組内容	・吉野町、奈良県、近鉄で駅舎利活用について意見交換を実施し、駅舎の利活用に向けた取組を検討・実施する
実施主体・協力主体	吉野町、奈良県、近畿日本鉄道
実施効果	無人駅等における安心・安全や利便性の確保
実施期間	R4.11～

取組名	村内巡回バスの安全性およびサービス向上
取組内容	長年の利用で老朽化した車両を取り換えることで、安全性や乗客へのサービス向上を図る
実施主体・協力主体	下北山村
実施効果	交通弱者等の安全・確実かつ快適な移動手段の確保
実施期間	R8.4～

その他の取組

取組名	地域情報の発信による公共交通の利用促進
取組内容	・地域の情報を様々な媒体で発信し、沿線地域の知名度を向上させ、公共交通の利用者拡大を図る
実施主体・協力主体	南部地域連携協議会
実施効果	沿線地域の知名度向上、広告収入による収支改善
実施期間	R4.9～

観光客向けの取組

取組名	村内コミュニティバスの再編
取組内容	・上北山村内のコミュニティバスの利用状況を踏まえた運行形態等を検討し、村内コミュニティバスの再編に向けた取組を検討・実施する
実施主体・協力主体	上北山村、奈良県
実施効果	住民の移動ニーズに応じた公共交通の実現
実施期間	R4.9～

取組名	電動バイクの活用による周遊促進
取組内容	・観光客向け2次交通として、電動バイクを導入し、観光地間の周遊促進を図る
実施主体・協力主体	一般社団法人吉野ビクターズビューロー
実施効果	公共交通を利用した観光周遊の促進
実施期間	R5.2～

取組名	新たな貨客混載の実施
取組内容	・近鉄やバス等において、沿線地域の特産品等を都市部へ運ぶ「貨客混載」を実施し、新たな需要開拓と荷物搬送の効率化を図る取組を検討する
実施主体・協力主体	吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県、交通事業者、生産者
実施効果	特産品の販路拡大、鉄道やバスの収支改善
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRを実施する
実施主体・協力主体	大淀町、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光モデルコースの発信による観光の公共交通利用促進
取組内容	・ゆうゆうバスを利用した観光のモデルコースを作成し、公共交通の利用促進を図る
実施主体・協力主体	吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県、交通事業者、バス協会
実施効果	観光客の公共交通利用増
実施期間	R4.12～

取組名	サイクルトレイン導入による公共交通の利用促進
取組内容	・近鉄吉野線において、新たな交通モードが提供できるよう、サイクルトレインの導入に向けた取組を検討する
実施主体・協力主体	吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県、交通事業者
実施効果	複合的な交通サービスの展開による利用促進
実施期間	R5.4～

○南部Dにおける重点取組事項について

○ 観光モデルコースの発信による観光の公共交通利用促進

重点取組事項のねらい	南部地域連携コミュニティバス沿線において、観光モデルコースを作成し発信することで、公共交通を利用する観光客の増加を図る
実施効果	南部地域連携コミュニティバスをはじめとする公共交通の観光利用増
活用する支援制度	運輸事業振興助成交付金、公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R5)	2年目(R6)	3年目(R7)	4年目(R8)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> 観光モデルコースの内容検討 マップ化へ向けたデザイン、レイアウト等の調整(県→バス協会の運輸事業振興助成交付金の活用を想定) 特典等の内容・付与方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 観光周遊マップの発行 利用実態調査 広報活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> マップを活用したさらなる利用促進の実施 利用実態調査様式の検討・作成 広報活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> マップを活用したさらなる利用促進の実施 利用実態調査の実施 広報活動の実施
役割分担 (※1:実施主体)	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 バス協会への交付金事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 利用促進策に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 利用促進策に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 利用促進策に対する支援
	※1 大淀町 吉野町 川上村 下北山村 上北山村	<ul style="list-style-type: none"> 各町村における観光モデルコースの検討 モデルコース発信に係る観光部局との調整 特典付与等利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 特典付与等利用促進策の検討 マップを活用したさらなる利用促進の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 マップを活用したさらなる利用促進の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 特典付与等利用促進策の検討 マップを活用したさらなる利用促進の実施
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 特典付与等における対応方法の検討(例)バス車内で乗車証明を発行できるかetc. 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施
	奈良県バス協会	<ul style="list-style-type: none"> マップ発行に向けての調整 	<ul style="list-style-type: none"> マップの配布、情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> マップの配布・情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> マップの配布・増刷等の調整、情報発信
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 運輸事業振興助成交付金 	<ul style="list-style-type: none"> 運輸事業振興助成交付金 	<ul style="list-style-type: none"> 運輸事業振興助成交付金 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 運輸事業振興助成交付金 公共交通基本計画推進支援事業

運行年度は、前年10月～当年9月

北西部Aグループ

(関係市町村:奈良市、生駒市)

路線・地域の概要

- 関係市町村
 - 奈良市、生駒市
- 主な公共交通機関
 - ・近鉄 京都線 けいはんな線 奈良線
 - ・奈良交通(富雄北生駒線(旧富雄庄田線B)、学園前相楽線)
 - ・コミュニティバス:たけまる号(生駒市)
- 主な利用データ
 - 〔主要駅乗降人員〕
 - ・高の原駅 30,366人/日(R6)
 - ・富雄駅 24,622人/日(R6)
 - ・白庭台駅 9,072人/日(R6)
 - ・学研北生駒駅 5,955人/日(R6)
 - ・学研奈良登美ヶ丘駅 13,620人/日(R6)
 - 〔バス路線情報〕
 - ・富雄北生駒線:5診断指標のうち、収支率の1指標が未達(R元~)

- 関係情報
 - ・近鉄けいはんな線の沿線には多くの学校が所在
 - ・富雄庄田線では、地域公共交通利便増進実施計画に基づきR7.10月に富雄駅~学研北生駒駅間を運行する富雄北生駒線、学研北生駒駅~傍示間を運行する北生駒傍示線への路線再編を行った。
 - ・沿線の高山サイエスタウンには、奈良先端科学技術大学院大学など7団体が立地
 - ・高山第2工区の整備が予定(R4.6月にマスタープラン策定)
 - ・北生駒傍示線北部では、くろんど池自然公園や生駒市体育協会高山S.C.など、家族向けの施設が所在
 - ・高山竹林園のイベント(高山竹あかり)には約3,000名が来園
 - ・県では生駒市のコミュニティバスにおけるクロスセクター効果の算定を実施

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・富雄北生駒線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 富雄北生駒線は奈良市と生駒市を跨る地域間幹線として、北生駒傍示線は高山地区唯一の公共交通機関として、沿線住民にとって貴重な足となっている。
 - 学園前相楽線は、京都方面から奈良先端科学技術大学院大学へ向かう利用が見られる
- 【課題】
 - 事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある(富雄北生駒線・北生駒傍示線)
 - R7.10月に地域公共交通利便増進実施計画に基づく路線再編により、運行の効率化と利便性向上による利用者の増加を図ったが、継続的な利用促進の取組みが必要不可欠
 - 沿線に所在する家族向けの施設や大学、企業へのアクセスに公共交通を利用してもらうための取組みが必要

取組の方向性

—住民向け— 【目標】通院・買い物等における公共交通手段の確保・維持

- 住民(利用層/非利用層)のニーズ把握

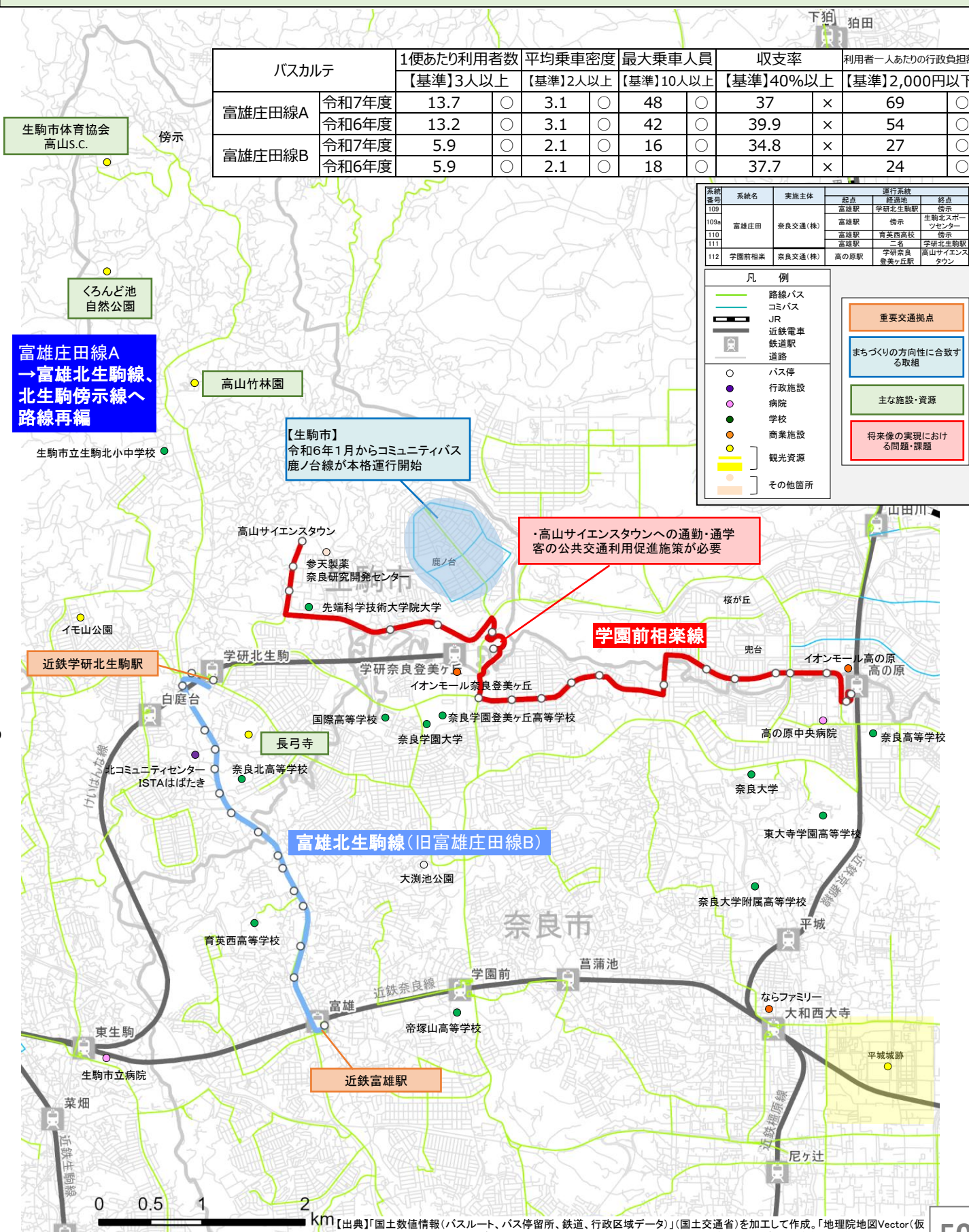
—沿線の施設利用者向け—
【目標】沿線への通勤・通学者の公共交通手段の確保・維持

- 駅から大学・企業等までの移動手段の確保・充実
- 通勤・通学者の移動ニーズに応じた公共交通の充実

—観光客向け— 【目標】くろんど池自然公園、高山竹林園の利用者の公共交通利用増

- 拠点駅から観光施設までの移動手段の確保・情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



バスカルテ	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額	
	令和7年度	令和6年度	【基準】2人以上	【基準】2人以上	【基準】10人以上	【基準】10人以上	【基準】40%以上	【基準】40%以上	【基準】2,000円以下	【基準】2,000円以下
富雄庄田線A	13.7	13.2	○	○	○	○	×	×	○	○
	13.7	13.2	○	○	○	○	×	×	○	○
富雄庄田線B	5.9	5.9	○	○	○	○	×	×	○	○
	5.9	5.9	○	○	○	○	×	×	○	○

系統番号	系統名	実施主体	起点	経路地	運行系統	終点
109	富雄庄田	奈良交通(株)	富雄駅	学研北生駒駅	傍示	傍示
110	富雄庄田	奈良交通(株)	富雄駅	青英西高校	学研北生駒駅	学研北生駒駅
111			富雄駅	学研奈良登美ヶ丘駅	高山サイエスタウン	高山サイエスタウン
112	学園前相楽	奈良交通(株)	高の原駅	学研奈良登美ヶ丘駅	学研奈良登美ヶ丘駅	学研奈良登美ヶ丘駅

: 重点取組事項

住民向けの取組

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	奈良市、生駒市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	富雄庄田線の見直しによる、高山地区住民の移動手段確保
取組内容	・運行の効率化と利便性向上による利用者の増加で収支改善を図り、持続可能な路線に再編するため、アンケート調査や利用実績等に基づき地域公共交通利便増進実施計画を策定する
実施主体・協力主体	生駒市、奈良県、奈良交通
実施効果	地域住民の利便性向上、公共交通利用率の増加
実施期間	R6.4～

取組名	住民の公共交通の認知度向上による利用促進
取組内容	・広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す
実施主体・協力主体	生駒市、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	バス停留所の整備
取組内容	バス停留所の利用環境を向上させるため、富雄庄田線のバス停留所の上屋を整備する。
実施主体・協力主体	生駒市・奈良交通
実施効果	バス停留所の利用環境向上、路線バスの利用促進
実施期間	R6.1～

取組名	ノンステップバスの導入
取組内容	・当該地域を運行する路線バスのバリアフリー対応を促進するため、路線バス車両のノンステップバスへの更新に係る経費の一部を市が補助する、
実施主体・協力主体	奈良市・奈良交通
実施効果	公共交通の移動等円滑化の促進
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	生駒市地域公共交通計画の再策定
取組内容	・現行の生駒市地域公共交通計画策定時から社会情勢や生駒市の現状が大きく変化しているため、現行の計画を廃止した上で、改めて現状と課題を分析し、アンケート調査などを実施して新たに計画を策定する
実施主体・協力主体	生駒市
実施効果	公共交通の利用増、利便性向上
実施期間	R7.4～

観光客向けの取組

取組名	イベント等における公共交通利用促進
取組内容	・くろんど池自然公園、高山竹林園、長弓寺のあじさいなど沿線の魅力発信を進めるとともに、公共交通を利用したアクセスについてPRする
実施主体・協力主体	生駒市、奈良県、奈良交通
実施効果	観光客の公共交通利用促進
実施期間	R5.4～

沿線の施設利用者向けの取組

取組名	通勤・通学における公共交通利用の拡大
取組内容	・高山サイエンスタウンへの通勤・通学需要の取込みに向けた利用促進策の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通・奈良先端科学技術大学院大学・高山地区立地施設等連絡協議会・奈良県・奈良市・生駒市
実施効果	通勤・通学における路線バスの利用増
実施期間	R5.4～

取組名	学生への公共交通のPR
取組内容	・留学生も多い奈良先端科学技術大学院大学の学生に対し、鉄道や路線バスといった公共交通について知ってもらい、利用促進を行う
実施主体・協力主体	奈良先端科学技術大学院大学、交通事業者
実施効果	学生の公共交通利用増
実施期間	R5.4～

○北西部Aにおける重点取組事項について

○富雄庄田線の見直しによる、高山地区住民の移動手段確保

重点取組事項のねらい	高山地区における持続的な公共交通サービスの提供
実施効果	地域住民の利便性向上、公共交通利用率の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R6)	2年目(R7)	3年目(R8)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) バス路線利用増加に向けた課題整理 路線再編を見据えた、住民の移動ニーズをカバーする交通モードと利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) バス路線利用増加に向けた課題整理 上記を踏まえた地域公共交通利便増進実施計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 再編路線の運行開始 広報活動の実施 利用促進策の検討
役割分担	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 収支改善策の検討 路線再編に係る調査検討の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 収支改善策の検討 路線再編に係る調査検討の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 広報の支援 利用実態調査の実施支援
	生駒市	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討 利用実態調査等を実施し、既存路線の収支改善や最適な公共交通の再構築を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討 利用実態調査等を実施し、地域公共交通利便増進実施計画を策定 	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通利便増進実施計画に基づく利用促進策の実施 財政支援の実施 広報等による周知の支援
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通利便増進実施計画に基づく運行の実施 再編後の路線利用データの整理・分析
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業

運行年度は、前年10月～当年9月

北西部Bグループ

(関係市町村:奈良市、大和郡山市)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
奈良市、大和郡山市
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 大和路線
 - ・近鉄 奈良線 京都線 橿原線
 - ・奈良交通(郡山若草台線)
 - ・コミュニティバス: 元気城下町号・元気治道号・元気平和号(大和郡山市)
- **主な利用データ**
 - ・JR郡山駅 乗車人員 **5,017人/日(R6)**
 - ・近鉄郡山駅 乗降人員 **16,005人/日(R6)**
 - ・郡山若草台線: 5診断指標達成 (**R7**)
- **関係情報**
 - ・令和5年2月、近鉄郡山駅移設に関する役割分担や費用負担につき、基本協定を県・大和郡山市・近鉄の三者で締結
 - ・奈良県総合医療センターの移転開院に伴い、同センターの玄関口に入り入れ(H30.3月～)およびバス情報表示装置の設置(H30.3月)

- ・郡山城跡は国史跡として指定された(R4.11月)
- ・郡山城跡公園は、さくら名所100選に選ばれており、毎年、春に開催される「大和郡山お城まつり」には多くの人々が訪れる
- ・(公財)郡山城史跡・柳沢文庫保存会による大和郡山市城内町の修景整備工事(番屋等の改修等)が令和4年4月に完成し、カフェや休憩所として利用できるようになった
- ・踏切による渋滞の緩和対策として、都市計画道路城廻線の整備が進んでいる
- ・令和5年10月の路線再編により、路線短縮
- ・郡山駅前にシェアサイクルポート設置
- ・JR大和路線に有料座席サービス「快速うれシート」設定(R5.10月～)、通勤特急「らくらくやまと」運行(R6.3月～)
- ・**大和郡山市の観光PRイベントを大阪駅で実施(土・日の2日間)(R7.5月)**
- ・**奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW&LOOP」プロジェクト始動(R6.12月～)**
- ・大河ドラマ(NHK)「豊臣兄弟！」放送(R8.1月～)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・郡山若草台線: 診断指標5項目の達成

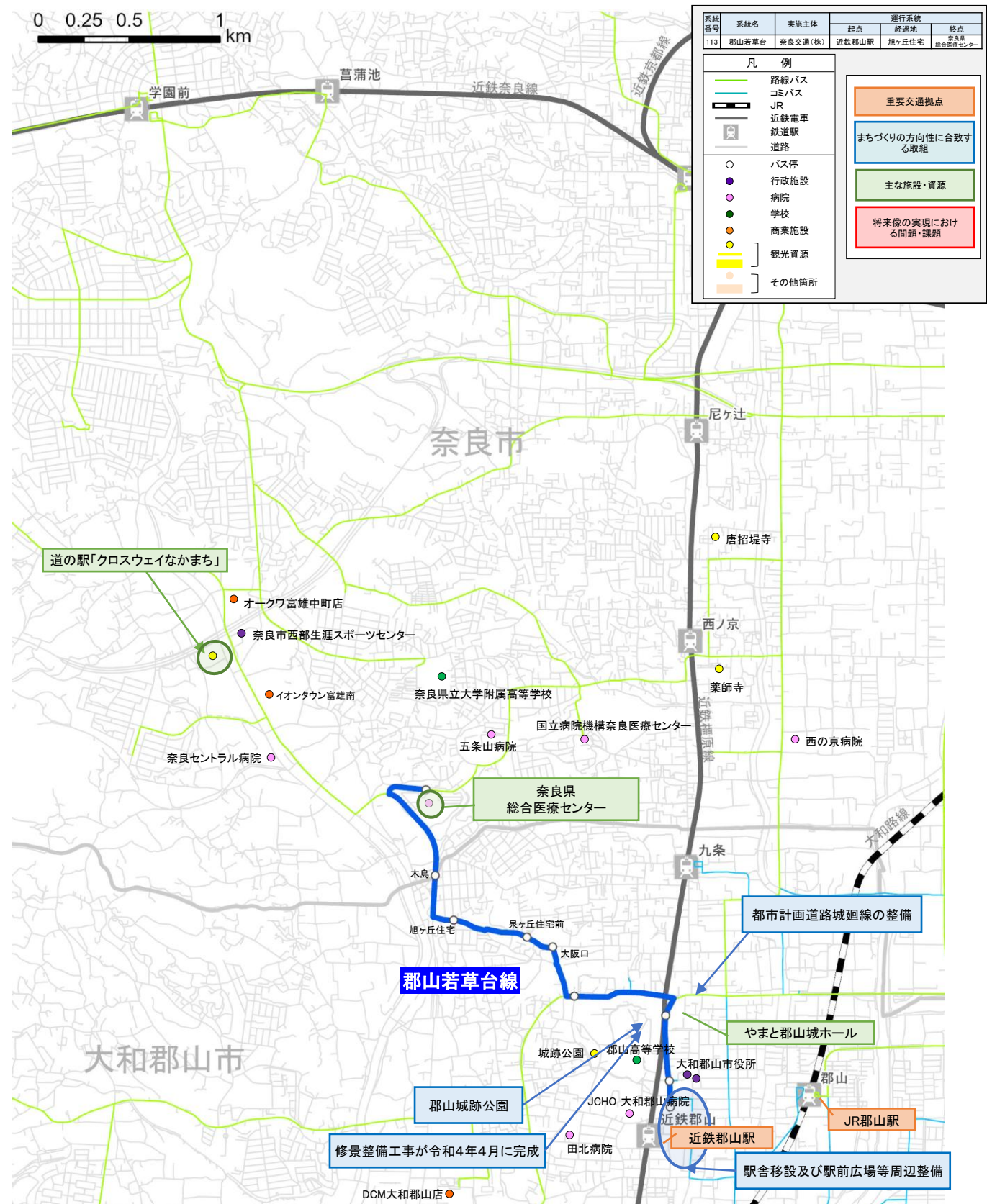
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 奈良県総合医療センターと近鉄郡山駅を結ぶ路線
 - 奈良県総合医療センターが路線バスの乗り換え拠点となっており、その施設への行き来に一定数の利用があるが、買い物や通勤・通学等での利用が主
 - 城廻線の整備により交通アクセスが向上
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 沿線に施設が少ないため、路線の維持に向け、公共交通の利用促進策が課題

取組の方向性

- ー 奈良県総合医療センターへの通院者向けー
 - 【目標】公共交通を利用した通院需要の取込
 - 来訪者のニーズ把握
 - 来訪者に対する公共交通利用促進施策の実施
 - 病院に勤務されている人に対する公共交通利用促進施策の実施
- ー 住民向けー
 - 【目標】買い物・通勤・通学等、必要な用事を車がなくても便利に
 - プロジェクトと連携した公共交通利用促進策の検討・実施
 - 通勤・通学需要を取り込むための効果的な広報の実施

まちづくりの方向性(イメージ図)



バスカルテ	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額		
	【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	○	【基準】2,000円以下	○	
郡山若草台線	令和7年度	5.6	○	3.2	○	24	○	50.1	○	32	○
	令和6年度	5.0	○	3.3	○	19	○	55.5	○	27	○

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

奈良県総合医療センター通院者向けの取組

取組名	病院通院者に対する公共交通利用促進策の実施
取組内容	・通院者の移動ニーズを調査・分析し、利用に便利な交通手段として認知されるよう、広報誌やSNS等を通じて住民へ周知する取組の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～
取組名	病院に勤務されている人に対する公共交通利用促進策の実施
取組内容	・病院への通勤需要を取り込むため、病院に勤務されている人向けの公共交通利用促進策の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、奈良県、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

住民向けの取組

取組名	近鉄郡山駅移設事業の推進	取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和5年2月に締結した近鉄郡山駅移設に関する基本協定に基づき、駅舎移設及び駅前広場等周辺整備を推進 ・駅移設、バスターミナル整備と連動した公共交通アクセスの改善	取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	大和郡山市、奈良県、交通事業者	実施主体・協力主体	大和郡山市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上	実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～	実施期間	R5.4～
取組名	通勤・通学需要の取込	取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・朝の通勤・通学時間と運行ダイヤを調整し、通勤・通学需要の取込を図るため、広報誌やSNS等を活用	取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通、奈良市、大和郡山市、奈良県	実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加	実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.4～	実施期間	R5.3～
取組名	公共交通の乗り継ぎ利便性の向上	取組名	地域公共交通計画の策定
取組内容	・路線バスの乗り継ぎ拠点である奈良県総合医療センターにおいて、公共交通の利便性向上に向けた取組を検討・実施	取組内容	・地域分析等を通じて、持続可能な公共交通の将来像を示す地域公共交通計画を策定する。
実施主体・協力主体	奈良市、奈良交通	実施主体・協力主体	大和郡山市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上	実施効果	地域公共交通の維持・活性化
実施期間	R5.10～	実施期間	R6.4～
取組名	デマンド交通の実証運行		
取組内容	・交通空白地の解消を目的に、デマンド交通の実証運行を行い効果検証を行う。		
実施主体・協力主体	大和郡山市、奈良県		
実施効果	交通空白地の解消		
実施期間	R7.4～		

北西部Cグループ

(関係市町村:香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 大和路線 和歌山線
 - ・近鉄 田原本線 生駒線
 - ・奈良交通(信貴山線 白鳳台住宅線 三郷線)
 - ・コミュニティバス:カシバス(香芝市)、あいばす(平群町)、上牧町コミュニティバス、すな丸号(河合町)
- **主な利用データ**
 - ・乗車人員 JR畠田駅 1,361人/日(R6)
 - JR王寺駅 21,728人/日(R6)
 - JR三郷駅 1,617人/日(R6)
 - ・乗降人員 近鉄信貴山下駅 2,291人/日(R6)
 - 近鉄王寺駅 8,520人/日(R6)
 - 近鉄新王寺駅 6,241人/日(R6)
 - ・信貴山線、白鳳台住宅線、三郷線: 5診断指標達成(R7)
- **関係情報**
 - ・年間15万人が訪れる信貴山のどか村に温泉施設「信貴の湯」がオープン(R3.10月)
 - ・王寺駅周辺のまちづくりが進行中
 - ・王寺町美しヶ丘地区で電動カートを運行(R5.3月～)
 - ・三郷町のFSS35キャンパスがオープン(R5)
 - ・令和6年度にJR三郷駅～FSS35キャンパスで自動運転実証実験(R7.1.9～R7.1.15)
 - ・香芝市コミュニティバスの利用者の範囲が拡大し、観光客や市外在住の方も利用可能に(R3.4月～)
 - ・香芝市スポーツ公園プールのオープンに伴い香芝市コミュニティバスの乗降場所を追加(R8.4月～)
 - ・畠田駅前整備
 - ・法隆寺や信貴山などを巡る「WEST NARA わんデイパス」発売(奈良交通)
 - ・JR大和路線に有料座席サービス「快速うれシート」設定(R5.10月～)、通勤特急「らくらくやまと」運行(R6.3月～)
 - ・奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW&LOOP」プロジェクト始動(R6.12月～)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・信貴山線、白鳳台住宅線、三郷線: 診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

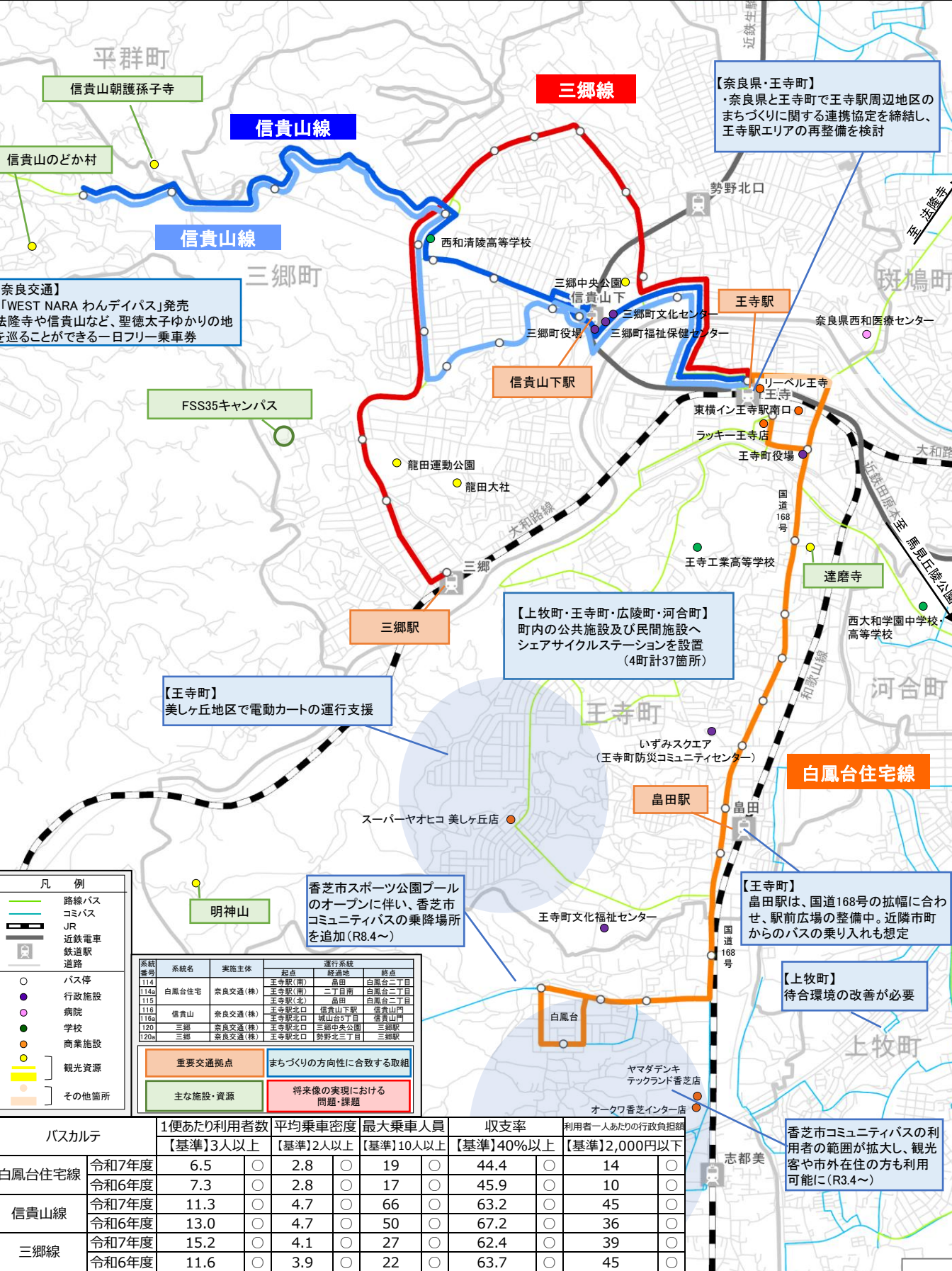
- 【位置付け】
 - このエリアにあるバス路線の大半は、地域住民や免許返納した高齢者の通院や買い物利用に不可欠な路線となっており、利用者の大半は王寺駅に向かう通勤・通学者となっている
 - 王寺駅を拠点に、周辺各地域への公共交通網が構築されている
 - 白鳳台住宅線、三郷線について、昼間の利用者数が少なくなっている
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 交通手段として、公共交通利用への仕掛けが必要
 - 高齢者に対してバス停までの移動手段の確保
 - 法隆寺、馬見丘陵公園といった集客力のあるスポットと信貴山、達磨寺をつなぐ公共交通の利用促進施策が必要

取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】交通利便性の高い利用環境の構築
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 王寺駅・畠田駅を拠点に利便性の高い二次交通の構築
 - 公共交通利用促進を図るため、ラストワンマイル対策の取組の検討・実施
 - 通勤・通学者の公共交通利用促進に向けた取組の実施

- 観光客向け —
- 【目標】公共交通を利用した観光客増に向けた取組強化
 - 公共交通を利用した観光モデルルートの立案・周知
 - 観光施設と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
 - 法隆寺や馬見丘陵公園と信貴山や達磨寺等の双方に訪れてもらうための情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



系統番号	系統名	実施主体	運行系統	起点	終着地	終点
114	白鳳台住宅	奈良交通(株)	畠田	王寺駅(南)	白鳳台二丁目	白鳳台二丁目
115	信貴山	奈良交通(株)	三郷	王寺駅(北)	信貴山下駅	信貴山門
116	三郷	奈良交通(株)	三郷	三郷駅北口	三郷中央公園	三郷駅
120	三郷	奈良交通(株)	三郷	三郷駅北口	三郷中央公園	三郷駅
120a	三郷	奈良交通(株)	三郷	三郷駅北口	三郷中央公園	三郷駅

バスカルテ	1便あたり利用者数		平均乗車密度		最大乗車人員		収支率		利用者一人あたりの行政負担額	
	【基準】3人以上	○	【基準】2人以上	○	【基準】10人以上	○	【基準】40%以上	○	【基準】2,000円以下	○
白鳳台住宅線	令和7年度 6.5	○	2.8	○	19	○	44.4	○	14	○
	令和6年度 7.3	○	2.8	○	17	○	45.9	○	10	○
信貴山線	令和7年度 11.3	○	4.7	○	66	○	63.2	○	45	○
	令和6年度 13.0	○	4.7	○	50	○	67.2	○	36	○
三郷線	令和7年度 15.2	○	4.1	○	27	○	62.4	○	39	○
	令和6年度 11.6	○	3.9	○	22	○	63.7	○	45	○

住民向けの取組

観光客向けの取組

取組名	王寺駅を核とした効率的な公共交通ネットワークの構築
取組内容	・王寺駅を拠点とした効率的なモビリティについて検討・実施
実施主体・協力主体	香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	畠田駅前広場の整備に合わせた公共交通との連携
取組内容	・王寺町で検討中の畠田駅前広場の整備に合わせて、路線バスの効率化を図るなど、利便性の向上を検討
実施主体・協力主体	王寺町、香芝市、上牧町、河合町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスおよびデマンド交通の利用状況の分析を行い、利用促進策を検討
取組内容	・コミュニティバスおよびデマンド交通の利用実績や香芝市地域公共交通計画に掲げる評価指標の根拠データを基礎資料として、協議会での関連な審議を図るため、利用状況や目的に応じた施策の効果検証等について分析・整理する
実施主体・協力主体	香芝市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	香芝市、上牧町、河合町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	アフターコロナを見据えた公共交通を利用した観光についての広報
取組内容	・当エリアは観光利用が比較的多いため、アフターコロナを見据えた公共交通を活用した周遊観光について検討・実施
実施主体・協力主体	香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	バスロケーションシステムの導入
取組内容	・市コミュニティバスにおいてバスの位置情報等を提供するバスロケーションシステムを導入
実施主体・協力主体	香芝市、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R8.4～

取組名	バス停の待合環境の向上
取組内容	・国道168号の拡幅整備に合わせて、順次バス停上屋を整備
実施主体・協力主体	王寺町、奈良県
実施効果	利便性の向上
実施期間	R3.4～

取組名	シェアサイクルによる周遊促進
取組内容	・来訪者に北葛城郡4町を周遊してもらえるよう、町内の公共施設及び民間施設へシェアサイクルステーションを設置。
実施主体・協力主体	上牧町、王寺町、広陵町、河合町、ライフニジュウイチ(株)、OpenStreet(株)
実施効果	回遊性の向上、ラストワンマイルの確保(公共交通の補完)
実施期間	R6.11～

取組名	バス停留所に新たに上屋を設置
取組内容	・バス停設置基準に基づいた歩道幅員を確保できる箇所について、町内の主要施設が集中する区域を中心に歩道の形状に合わせた上屋を設置する
実施主体・協力主体	上牧町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	王寺駅南駅前広場の再整備
取組内容	・一般車両、公共交通、歩行者の動線の分離や待合環境の向上等を目的として、王寺駅南駅前広場の再整備を検討・実施
実施主体・協力主体	王寺町、JR西日本
実施効果	利便性及び安全性の向上
実施期間	R30.4～

取組名	シェアサイクルによる周遊促進
取組内容	・来訪者に生駒郡4町の観光スポットをめぐる新たな移動手段の1つとして、町内の公共施設及び民間施設へシェアサイクルステーションを設置。
実施主体・協力主体	平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町
実施効果	回遊性の向上、ラストワンマイルの確保(公共交通の補完)
実施期間	R7.4～

取組名	コミュニティバスの安全性及び利便性向上
取組内容	・老朽化した車両を取り換えることで、安全性や乗客へのサービス向上を図る
実施主体・協力主体	上牧町
実施効果	公共交通利用環境の向上
実施期間	R8.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

北西部Dグループ

(関係市町村: 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町)

路線・地域の概要

●関係市町村

奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町

●主な公共交通機関

- JR 大和路線・桜井線(万葉まほろば線) 近鉄 奈良線、橿原線
- 奈良交通 奈良法隆寺線、王寺シャープ線

●主な利用データ

- JR奈良駅 乗車人員 18,159人/日(R6) ・近鉄奈良駅 乗降人員 56,935人/日(R6)
- JR法隆寺駅 乗車人員 6,641人/日(R6) ・近鉄王寺駅 乗降人員 8,520人/日(R6)
- JR郡山駅 乗車人員 5,017人/日(R6) ・近鉄郡山駅 乗降人員 16,005人/日(R6)
- JR王寺駅 乗車人員 21,728人/日(R6) ・近鉄筒井駅 乗降人員 7,253人/日(R6)
- 奈良法隆寺線、王寺シャープ線:5診断指標達成(R7)

●関係情報

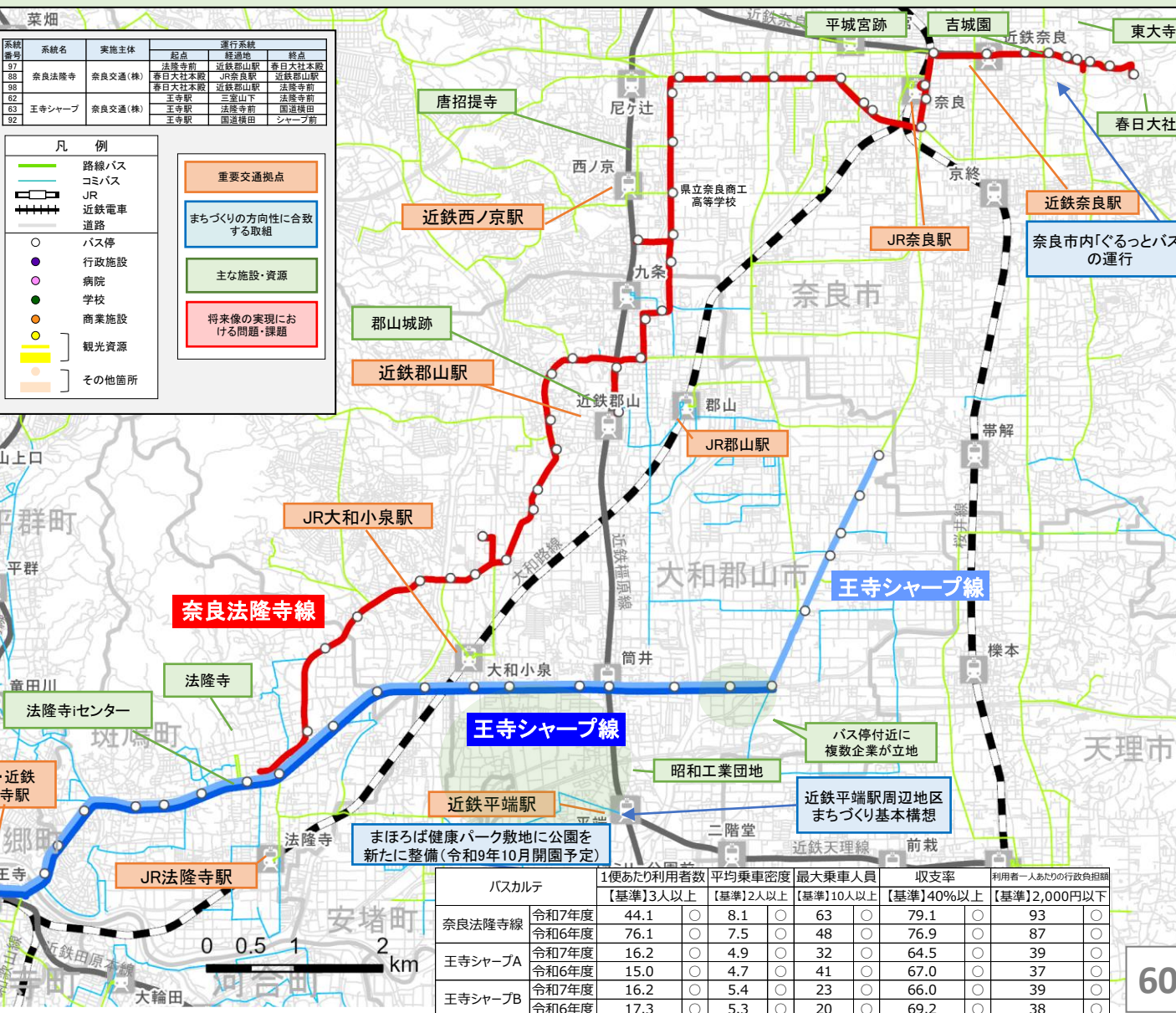
- 近鉄郡山駅の移設に関し、令和5年2月に基本協定締結
- 大和中央田園都市構想の推進に関し、県と磯城郡3町が包括的な協定を締結(R5.2月)
- 奈良公園バスターミナル(H31)、奈良県コンベンションセンターバスターミナル(R2)を設置し、観光客等の受入拠点の整備

- 令和3年度に「まちの玄関口」結崎駅前広場が完成し、交通結節点としての機能が強化
- 周辺に3つの鉄道駅が立地している昭和工業団地では、駅からの二次アクセスの向上を目指して、市町村と企業との連携や企業間の連携を検討する
- 郡山城跡は国史跡として指定された(R4.11月)
- サイクルアンドバスライド実証実験(R4~)
- 通勤特急「らくラクやまと」運行(R6.3~)、特急「まほろば」号定期運行化(R7.3月)、**ならびに車両の内装に奈良の魅力を表現したリニューアル車両運行開始(R7.4月~)**
- JR大和路線に有料座席サービス「快速うれシート」設定(R5.10月~)※R6.3月~から拡大
- 奈良・京終・帯解・郡山駅前にシェアサイクルポート設置
- 奈良県・奈良商工会議所と連携して「ならSLOW&LOOP」プロジェクト始動(R6.12月~)**
- 新西和医療センターの整備推進に関して、県と県立病院機構、斑鳩町の3者で協定を締結(R6.2月)
- 大河ドラマ(NHK)「豊臣兄弟！」放送(R8.1月~)

●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- 奈良法隆寺線、王寺シャープ線:診断指標5項目の達成

まちづくりの方向性(イメージ図)



本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 奈良主要観光拠点である奈良市中心部と法隆寺という観光施設が立地している
- 奈良市内を訪れている観光客の約7割が鉄道で来訪している(令和6年度)
- 川西町、安堵町周辺には、工業団地が整備

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 観光地間のシームレスな移動手段の確保をどのように実現するか
- 川西町、安堵町周辺の工業団地への公共交通による通勤の促進が必要
- 平行する奈良交通奈良法隆寺線と大和路線の連携が必要

取組の方向性

—住民向け—

【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 公共交通利用促進を図るため、ラストワンマイル対策の取組の検討・実施

—観光客向け—

【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 公共交通を利用した観光モデルルート of 立案・周知
- 観光施設と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 鉄道、バスが連携した来訪者を引き込む取組の実施

—企業向け—

【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施

- 企業誘致担当と連携した公共交通利用促進の取組実施
- 企業誘致事業と連携した公共交通利用者拡大に向けた仕掛けの検討
- 公共交通を利用した通勤のPR及びインセンティブ付与の検討

住民向けの取組

取組名	王寺駅を核とした効率的な公共交通ネットワークの構築
取組内容	・交通結節点である王寺駅を拠点とした効率的なモビリティについて検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	近鉄郡山駅移設に伴う公共交通アクセスの検討
取組内容	・近鉄郡山駅の移設計画と連動した公共交通アクセス方法の検討
実施主体・協力主体	大和郡山市、交通事業者、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R7.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

観光客向けの取組

取組名	観光イベント開催に伴う利便性の高い公共交通アクセスの提供
取組内容	・交通事業者と連携し、観光イベント開催時に利便性が高い公共交通アクセスを提供
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性の向上、観光客の増加
実施期間	R5.4～

取組名	デジタル技術を活用した新たな交通サービスの導入
取組内容	・デジタル技術を活用した観光MaaS等の新たな交通サービスの導入に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性の向上、観光客の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光施設と連携した公共交通の利用促進策の実施
取組内容	・観光施設と連携して、沿線にある観光施設の魅力を発信する宿泊旅行商品を造成・PRするとともに利用促進策を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	観光施設の魅力向上、公共交通利用者の増加
実施期間	R5.4～

取組名	路線バス車内モニターによる観光施設案内
取組内容	・路線バス車内のモニターで、観光施設の案内等を行い、観光地の知名度向上とともに利便性向上を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、奈良交通
実施効果	観光地の魅力PR、公共交通利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	交通モードを組み合わせた周遊観光の促進
取組内容	・観光客の移動ニーズに合わせて複数の交通モードが連携する周遊観光の取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性の向上、観光客の増加
実施期間	R5.4～

誘致している企業向けの取組

取組名	企業誘致事業と連携した公共交通利用促進及び既存工業団地内におけるバスの運行
取組内容	・企業誘致事業と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施 ・既存工業団地企業が共同出資するバス運行の検討・実施
実施主体・協力主体	安堵町、川西町、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～